

(案)

**豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査
報告書**

令和5年3月

豊島区

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の種類	3
3 調査方法と回収状況	3
4 調査項目	4
5 調査結果を見る上での注意事項	5
第2章 調査結果の詳細	7
1 調査結果から推察される区の現状と課題	9
（1）調査結果から見られる区の状況	9
（2）課題	9
2 基本属性	10
（1）自認する性	10
（2）年代	10
（3）家族構成	11
（4）年代×家族構成	11
（5）居住地域	12
（7）住居の種類	13
（8）世帯年収	13
3 暮らしの状況	14
■結果の概要	14
【育児や介護】	14
【仕事】	14
【ひきこもり状態】	14
【新型コロナウイルス感染症での困りごとについて】	14
【暮らしの状況について】	14
■調査結果から見受けられる課題について	14
（1）育児や介護	15
（2）仕事	18
（3）離職理由	19
（4）就労意欲	20
（5）ひきこもり状態にある方	21
（6）ひきこもり状態にある（あった）方で受けた（受けたかった）サービス	24
（7）ひきこもり状態で受けている（受けていた）サービス	25
（8）新型コロナウイルス感染症	26
（9）暮らしの状況	29
（10）暮らしの負担内容	31
4 住民同士の支え合いや助け合い	33

■結果の概要	33
【地域や人とのつながりの状況】	33
【支え合いや助け合いの状況】	33
■調査結果から見受けられる課題について	33
(1) 近所付き合いの程度	34
(2) 相談できる人の有無	37
(3) 支え合いや助け合いの必要性	39
(4) 支え合いや助け合いに必要な取り組み	40
(5) 支え合いや助け合いが必要ない理由	41
(6) 手助けしていること	43
(7) 手助けしていない理由	44
5 地域での活動	45
■結果の概要	45
【地域活動やボランティア活動の現状】	45
【今後の地域活動やボランティア活動に向けて】	45
【災害発生時の対応について】	45
■調査結果から見受けられる課題について	46
【地域活動やボランティア活動について】	46
【災害発生時の対応について】	46
(1) 地域活動への参加経験	47
(2) 地域活動に参加しない理由	49
(3) 地域活動への参加意向	50
(4) 参加したい地域活動	51
(5) 地域活動への参加に必要なこと	53
(6) 災害発生時の避難	54
(7) 災害時の手助けや対応	58
(8) 災害時に必要な備え	62
6 福祉のまちづくり	63
■結果の概要	63
【外出の状況】	63
【まちのバリアフリー】	63
■調査結果から見受けられる課題について	63
(1) 外出頻度	64
(2) 外出時に不便に思うこと	65
(3) まちのバリアフリーの満足度	67
(4) バリアフリー化を進めてほしい施設	68
(5) 外出先で困っているのを見かけた経験	69
(6) 困っていたこと	70

(7) その時にしたこと	71
(8) 心のバリアフリー普及に必要な仕組み	72
7 福祉・健康についての情報提供や相談	73
■結果の概要	73
【情報源の状況】	73
【相談拠点等の満足度と周知状況】	73
【成年後見制度の認知度】	73
【地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと】	73
■調査結果から見受けられる課題について	73
(1) 情報の入手先	74
(2) 区の相談窓口の満足度	76
(3) 各種相談窓口の周知度、相談経験、相談の意向	77
(4) 「社会福祉協議会」の認知度	80
(5) 「民生委員・児童委員」の認知度	81
(6) シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動	82
(7) シルバー人材センターに入会したいと思う取り組み	84
(8) シルバー人材センターを利用して働きたい業務	85
(9) 成年後見制度の認知度	86
(10) 成年後見制度を知ったきっかけ	87
(11) 成年後見制度の情報の入手先	88
(12) 成年後見制度の利用意向	89
(13) 成年後見制度を利用したくない理由	90
(14) 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと	91
(15) 自由意見・要望等（自由回答）	93
資料編	99
1 クロス集計表	101
2 調査票	177

第 1 章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、高齢者や障害者を含む誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施しました。

2 調査の種類

調査名	調査対象
豊島区地域保健福祉計画改定のための 区民意識・意向調査	豊島区内在住の18歳以上の区民3,000名

3 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査票：「日本語版」の他に、豊島区在住外国人の約半数を占める中国籍の方を対象に「中国語版」の調査票を、その他の外国籍の方を対象に「やさしい日本語版」での調査票を作成し送付しました。

抽出方法：年齢別人口割合に応じた層化抽出法*

* 層化抽出法とは、母集団（全体）をある特性に基づいていくつかの「層」に分け、その「層」と同じ比率を標本に投影させ、各層から抽出単位又は調査対象を抽出する方法。

調査期間：令和4年10月18日（火）～11月1日（火）

今回調査では、前回調査まで行ってきた単純無作為抽出法ではなく、年齢階層別に基づく層化抽出法により対象者の抽出を行いました。母集団である全豊島区民の各年齢階層の構成比と、今回調査で標本となる豊島区内在住の18歳以上の区民3,000名の構成比を同じものとして調査することで、その結果は母集団全員に意向調査を行った時の結果と似た内容になることが期待できます。

令和4年度調査（年齢階層別に基づく層化抽出法）

	母集団※	各層/母集団	発送数	回収数	回答率
18～19歳	3,748	1%	44	10	0.8%
20～29歳	47,005	19%	557	110	9.2%
30～39歳	47,986	19%	568	177	14.8%
40～49歳	45,589	18%	540	215	17.9%
50～59歳	38,471	15%	456	202	16.8%
60～64歳	13,641	5%	162	80	6.7%
65～74歳	27,033	11%	320	195	16.3%
75歳以上	29,808	12%	353	199	16.6%
不明・無回答				12	1.0%
合 計	253,281	100%	3,000	1200	100%

※母集団＝住民基本台帳による年齢別人口（令和4年4月1日時点）

《参考》平成28年度調査（単純無作為抽出法）

	回収数	回答率
18～19歳	-	-
20～29歳	46	5.0%
30～39歳	115	12.5%
40～49歳	142	15.4%
50～59歳	117	12.7%
60～69歳	221	24.0%
70歳以上	259	28.1%
不明・無回答	22	2.4%
合 計	922	100%

※発送数の把握は行っていません。

〈回収状況〉

調査名		発送数	回収数	回収率
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査		3,000 件	1,200 件	40.0%
(参考)	日本国籍	2,734 件	1,160 件	42.4%
	外国籍	266 件	40 件	15.0%

(参考)

前回調査（平成 28 年度調査）	3,000 件	922 件	30.7%
前々回調査（平成 25 年度調査）	3,000 件	878 件	29.3%

回収率増加に向けて行った主な取り組み：

- ・調査対象者全員に「お礼状（未回答者へ回答依頼）」を発送
- ・外国籍の方向けに相談窓口を開設
- ・外国籍版調査票に区ホームページの QR コードを添付
- ・区内連携 7 大学及び区内日本語専門学校 5 校に、留学生向けポスター掲示を依頼
- ・区ホームページに調査の実施案内を掲載（英語・中国語・韓国語に変換可能）
- ・区ツイッターにて調査協力依頼を配信
- ・区ツイッターにてお礼（未回答者へ回答依頼）を配信

4 調査項目

調査名	調査項目
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	1. 基本属性 2. くらしの状況 3. 住民同士の支え合いや助け合い 4. 地域での活動 5. 福祉のまちづくり 6. 福祉・健康についての情報提供や相談

5 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答数です。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。
- ・経年比較として掲載したものは、豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査のうち、前回調査とは「平成28年度の調査」、前々回調査とは「平成25年度の調査」を示します。
- ・クロス集計で用いる地区区分は、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）が担当している8地区に分類して集計しています。

	8区分	住所
東部	東部地区	駒込1～7丁目、巣鴨1・2丁目、南大塚1～3丁目
	菊かおる園地区	巣鴨3～5丁目、西巣鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目
北部	中央地区	北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目
	いけよんの郷地区	池袋1・2・4丁目、池袋本町1～4丁目
南部	医師会地区	西池袋1～5丁目、池袋3丁目、目白3～5丁目
	ふくろうの杜地区	南池袋1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1・2丁目
西部	西部地区	長崎1丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目
	アトリエ村地区	南長崎1～6丁目、長崎2～6丁目

第2章 調査結果の詳細

1 調査結果から推察される区の現状と課題

〈2 基本属性〉以降の調査結果を踏まえ、今の豊島区の状況や課題について全体を通した整理を行いました。

(1) 調査結果から見られる区の状況

○くらし

- ・区民の中には、孤立や孤独感を抱えている方がいることがわかりました。
- ・例えば、高齢者・障害者に加え、20代等の若い世代、単身者等は、災害などの緊急時に孤立するのではないかと懸念を抱えています。また、介護、ひきこもり状態の方を抱える世帯などは、地域からの孤立や生活に対する負担感が大きいといった傾向が見られます。

○コミュニティ・地域活動

- ・コミュニティについては、普段から関係のある方とのつながりが中心となりつつあるものの、あいさつを交わすなどの近所付き合いも続いています。
- ・地域活動に対する興味・関心が低下する傾向がみられます。特に町会・自治会等がこれまで担ってきた地域活動に対するニーズが低下する傾向があります。
- ・近所付き合いの希薄化や地域活動が停滞する傾向がみられますが、住民同士の支え合いや助け合いはこれからも必要だと考えられています。
- ・地域活動に参加していない区民が多い状況ですが、関心のある活動があれば参加したいなど、機会があれば参加したいと考える区民も多くいる状況です。

○福祉サービスなど困った方への支援

- ・若い世代など多くの区民は問題なく生活しており、区などが行う福祉サービスとの接点は低い状況です。一方、ひきこもりなど、相談窓口などの支援策を用意しているものの、そのサービスが対象者に届いていない状況もあります。
- ・しかしながら、いざ困ったときに支援が受けられるよう、各種サービスに対する必要性は感じられている状況でもあります。

(2) 課題

変化する区民のニーズや生活スタイルに配慮しつつ、困ったときに助け合い・支え合い、支援の手が届きやすい環境づくりを進めることが課題です。

(想定される対応例)

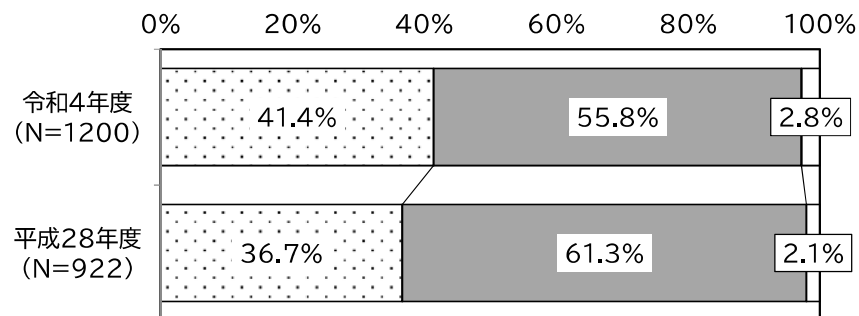
- ・支援体制のPRの充実・強化（ICT等の活用、困りごとの総合窓口機能の強化・PR）
- ・これからの時代に合った「チャンネル・つながりづくり」（ゆるやかにつながれる場、地域に興味を持てる機会・場づくり、意識啓発・手助けに関する情報提供等）
- ・20代等の若い世代への働きかけ（地域共生に関する意識啓発、時に支援も）
- ・地域で孤立する方々の情報把握（災害等、いざという時のために）

2 基本属性

(1) 自認する性

	日本国籍	外国籍	計
男性	474	23	497
女性	654	15	669
無回答	32	2	34
全体	1,160	40	1,200

男性
 女性
 不明・無回答



(2) 年代

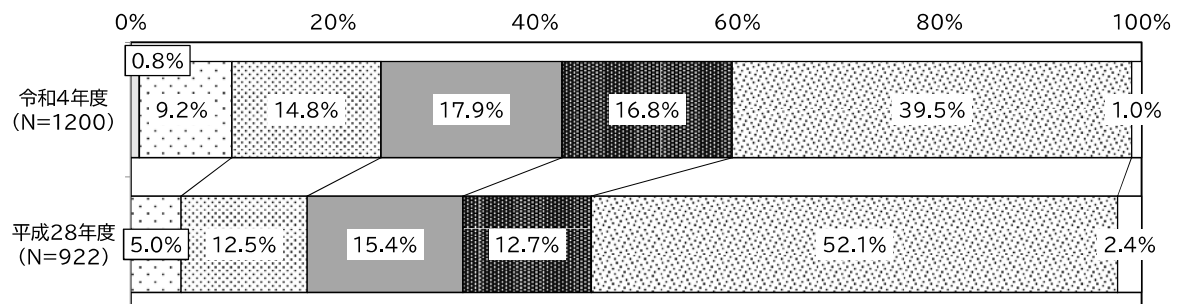
【令和4年度調査】

	日本国籍	外国籍	計
20歳未満	10	-	10
20～29歳	99	11	110
30～39歳	163	14	177
40～49歳	208	7	215
50～59歳	199	3	202
60～64歳	78	2	80
65～74歳	193	2	195
75歳以上	198	1	199
不明・無回答	12	-	12
全体	1160	40	1200

【参考：平成28年度調査】

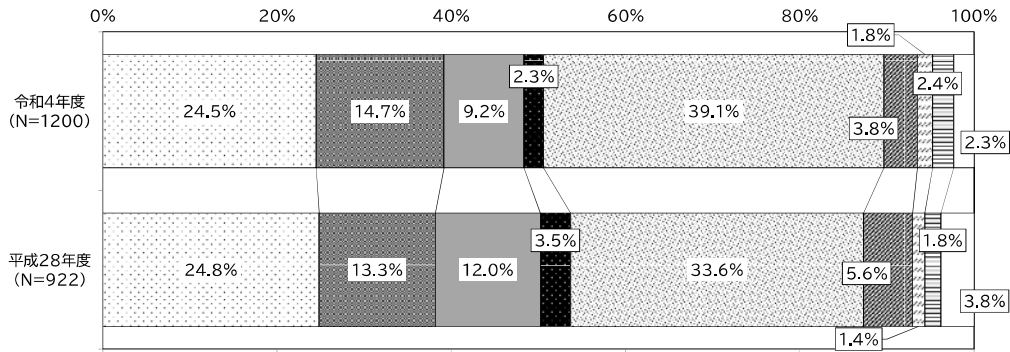
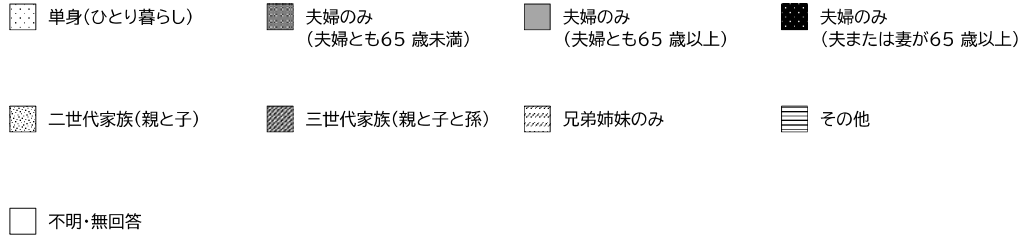
	回答数
20歳未満	-
20～29歳	46
30～39歳	115
40～49歳	142
50～59歳	117
60～69歳	221
70歳以上	259
-	-
不明・無回答	22
全体	922

20歳未満
 20～29歳
 30～39歳
 40～49歳
 50～59歳
 60歳以上
 不明・無回答



(3) 家族構成

家族構成	単身 (ひとり暮らし)	夫婦のみ			二世 代家族 (親と子)	三世 代家族 (親と子と孫)	兄弟 姉妹のみ	その他	不明	全 体
		夫婦とも 65 歳未満	夫婦とも 65 歳以上	夫または妻が 65 歳以上						
回答件数	294	176	110	27	469	46	21	29	28	1,200

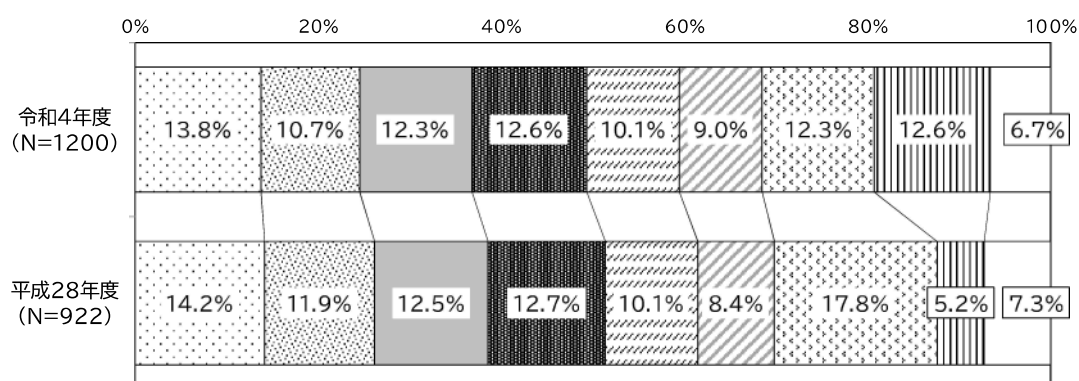
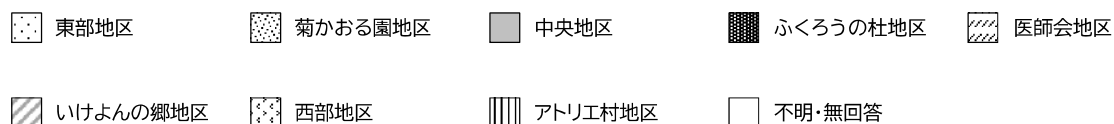


(4) 年代×家族構成

		全 体	Q34 家族構成								
			単身 (ひとり暮らし)	夫婦のみ (夫婦とも65歳未満)	夫婦のみ (夫婦とも65歳以上)	夫婦のみ (夫または妻が65歳以上)	二世代家族 (親と子)	三世代家族 (親と子と孫)	兄弟姉妹のみ	その他	不明・無回答
全体	件数	1200	294	176	110	27	469	46	21	29	28
	割合(%)	100.0	24.5	14.7	9.2	2.3	39.1	3.8	1.8	2.4	2.3
Q33 年代	20歳未満	10 100.0	- -	- -	- -	- -	9 90.0	1 10.0	- -	- -	- -
	20～29歳	110 100.0	49 44.5	12 10.9	- -	- -	38 34.5	2 1.8	2 1.8	5 4.5	2 1.8
	30～39歳	177 100.0	43 24.3	47 26.6	1 0.6	- -	75 42.4	3 1.7	1 0.6	7 4.0	- -
	40～49歳	215 100.0	40 18.6	34 15.8	- -	- -	125 58.1	10 4.7	1 0.5	5 2.3	- -
	50～59歳	202 100.0	46 22.8	42 20.8	- -	5 2.5	93 46.0	6 3.0	2 1.0	6 3.0	2 1.0
	60～64歳	80 100.0	16 20.0	25 31.3	1 1.3	5 6.3	25 31.3	2 2.5	4 5.0	1 1.3	1 1.3
	65～74歳	195 100.0	41 21.0	7 3.6	54 27.7	11 5.6	11 30.8	11 5.6	7 3.6	- -	4 2.1
	75歳以上	199 100.0	59 29.6	9 4.5	54 27.1	5 2.5	44 22.1	11 5.5	4 2.0	5 2.5	8 4.0

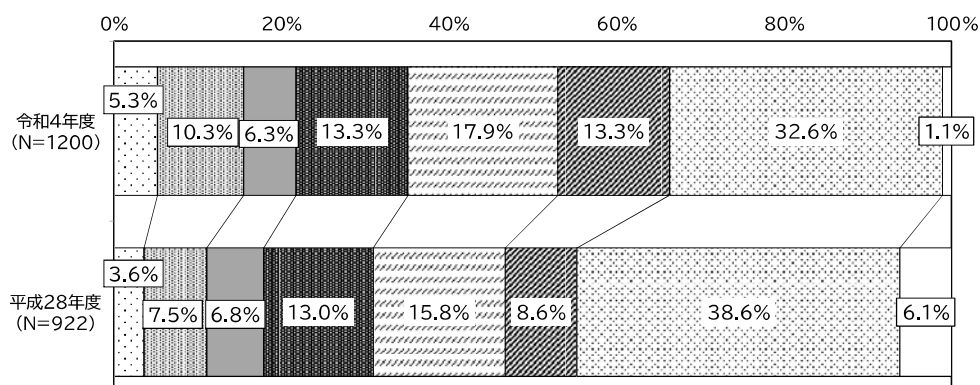
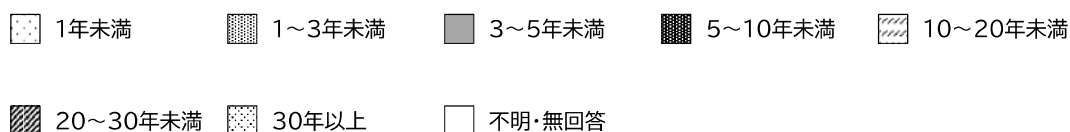
(5) 居住地域

地区	東 部	菊かおる園	中 央	ふくろうの杜	医師会	いけよんの郷	西 部	アトリエ村	不明・無回答	全体
回答件数	166	128	147	151	121	108	148	151	80	1,200



(6) 居住年数

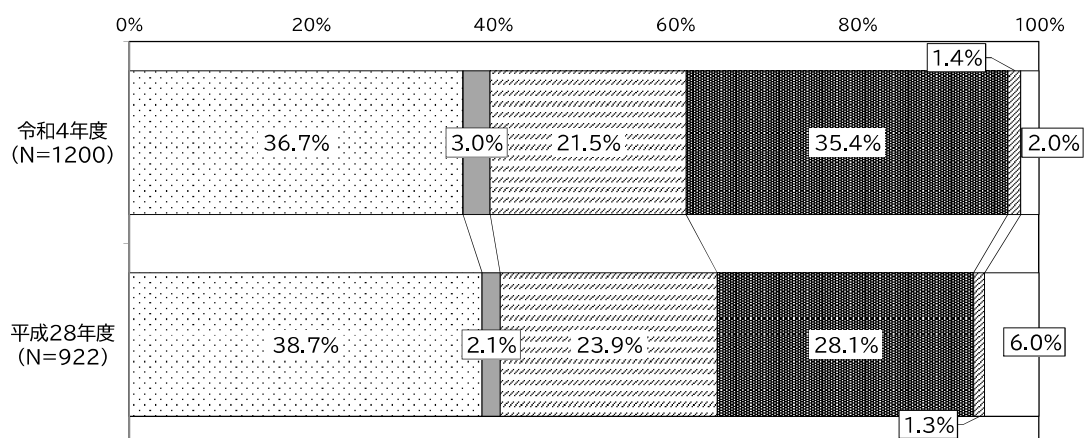
年数	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	不明・無回答	全体
回答件数	63	123	75	160	215	160	391	13	1,200



(7) 住居の種類

住居の種類	一戸建て (持ち家)	一戸建て (賃貸)	(分譲マンション等) 共同住宅	共同住宅 (賃貸マンション・ アパート・社宅等)	その他	不明	全体
回答件数	440	36	258	425	17	24	1,200

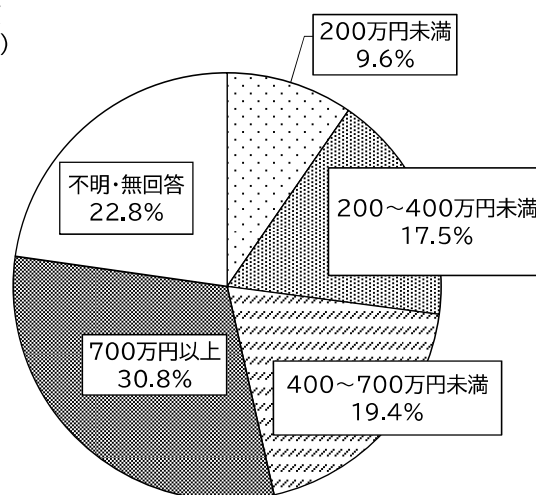
一戸建て(持ち家)
 一戸建て(賃貸)
 共同住宅
(分譲マンション等)
 共同住宅(賃貸マンション・
アパート・社宅等)
 その他
 不明・無回答



(8) 世帯年収

年収	回答数
200 万円未満	115
200～400 万円未満	210
400～700 万円未満	233
700 万円以上	369
不明・無回答	273
全体	1,200

令和4年度
(N=1200)



3 くらしの状況

くらしの状況を把握し、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【育児や介護】

育児の中心は40歳代、介護の中心は60歳代が担っています。前回調査では育児の中心が30歳代、介護は50歳代であり、育児や介護をする年代が上がってきています。育児と介護の両方をしているいわゆる「ダブルケア」は40歳代が多くなっています。

くらしの状況を見ると、「ダブルケア」を含めて介護をしている方は、仕事や収入の制約が大きく、生活に《苦しさ》を抱えている状況にあります。一方、くらしの状況に関わらず、育児や介護は、暮らしの大きな負担になっています。

【仕事】

仕事については、「仕事をしていたが離職した」、「仕事をすることがない」と回答した方のうち20歳未満や30歳代で就労意欲が高くなっています。「仕事をしていたが離職した」理由としては、30～40歳代では「育児」、50歳代では「介護」、60歳以上の年代では「高齢のため（定年退職を含む）」が多くなっています。

【ひきこもり状態】

ひきこもり状態の方がいる世帯は、全体の2.8%、過去にいた世帯も加えると全体の4.9%に上ります。豊島区でひきこもり状態の方がいる世帯は約5,000世帯、総人口に対する割合は約1.8%になると推計されます。

こうした世帯は、くらしが苦しく、経済面や健康面での負担が大きいと感じています。また、近所付き合いが希薄で、相談できる方がおらず、孤立する傾向が見られます。ひきこもり状態の方が受けたいサービスは、生活費や当事者・家族向け相談です。しかしながら、ひきこもりに関するサービスの認知度が低い状況もあり、ひきこもり状態の方がいる世帯、または過去にいた世帯では、支援を受けている方が少なく、必要な支援が届いてない状況にあります。

【新型コロナウイルス感染症での困りごとについて】

新型コロナウイルス感染症が拡大する中での新たな困りごととしては、「社会参加の場・機会が減少した」が多くなっています。その他、65歳以上では「運動不足になった」といった問題が多くなっています。

【くらしの状況について】

現在のくらしの状況は、やや《ゆとりあり》と感じている方が多い状況です。しかし、属性ごとに詳しくみると、年代別では「60～64歳」、「50～59歳」、「20～29歳」で、家族構成別でみると、「単身（ひとり暮らし）」、「兄弟姉妹のみ」、「その他」で、《ゆとりがある》より《苦しい》が多くなっています。

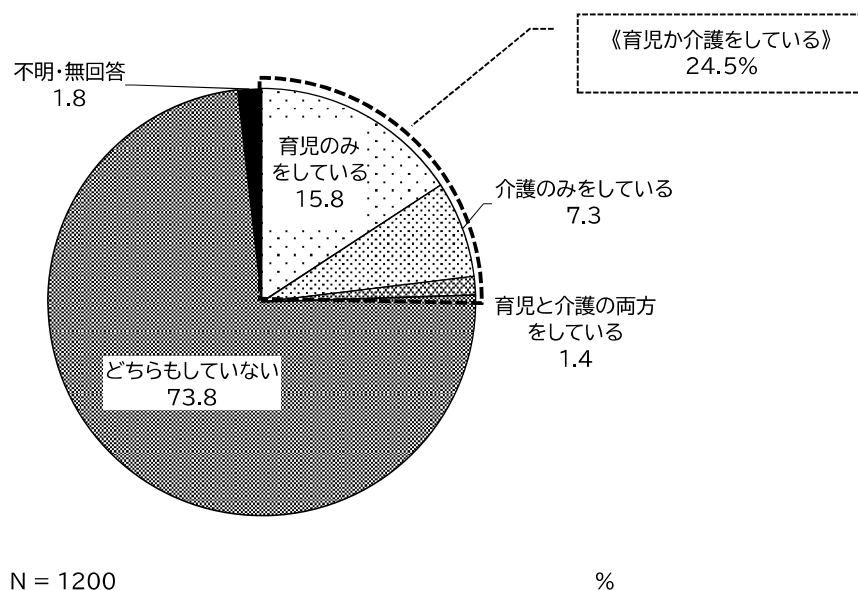
■調査結果から見受けられる課題について

- ・ 育児や介護をしている方のくらしの負担の軽減
- ・ 現在離職中の方で、就労意欲のある方の就労の支援
- ・ ひきこもり状態の方やその家族の方が相談しやすい体制・環境づくり
- ・ 就労支援の他、年代や世帯の状況に応じた問題に対応しうるきめ細やかな支援・相談体制の充実

(1) 育児や介護

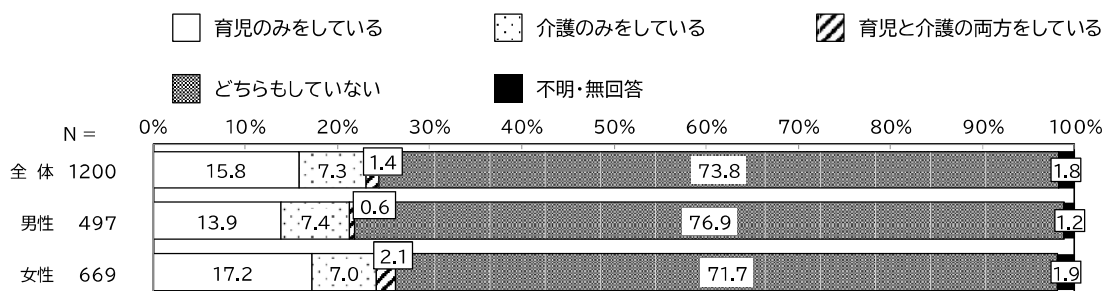
問1 育児や介護をしていますか。(○は1つのみ)

育児や介護について、73.8%の方が「どちらもしない」と回答しています。一方、「育児のみをしている」は15.8%、「介護のみをしている」は7.3%、「育児と介護の両方をしている」いわゆる「ダブルケア」の方は1.4%で、これらをあわせた《育児か介護をしている》は、24.5%となっています。



[自認する性別]

自認する性別でみると、「育児のみをしている」は、「男性」の13.9%に比べて「女性」が17.2%と多くなっています。一方、「介護のみをしている」は、「男性」が7.4%と、「女性」が7.0%で、ほぼ同じです。

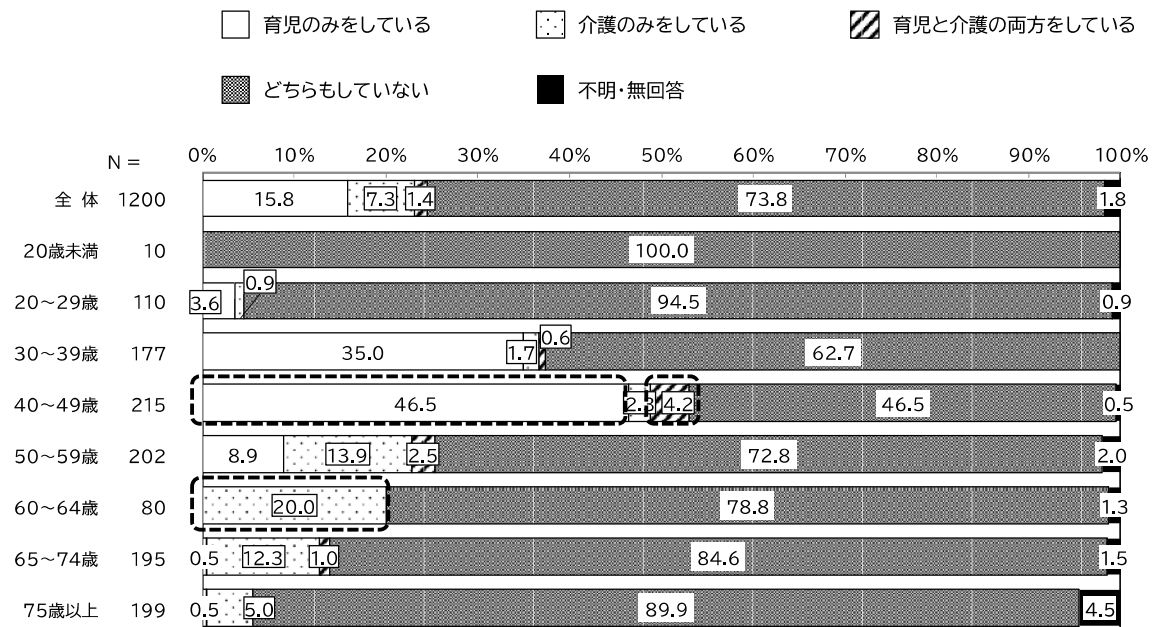


[年代別]

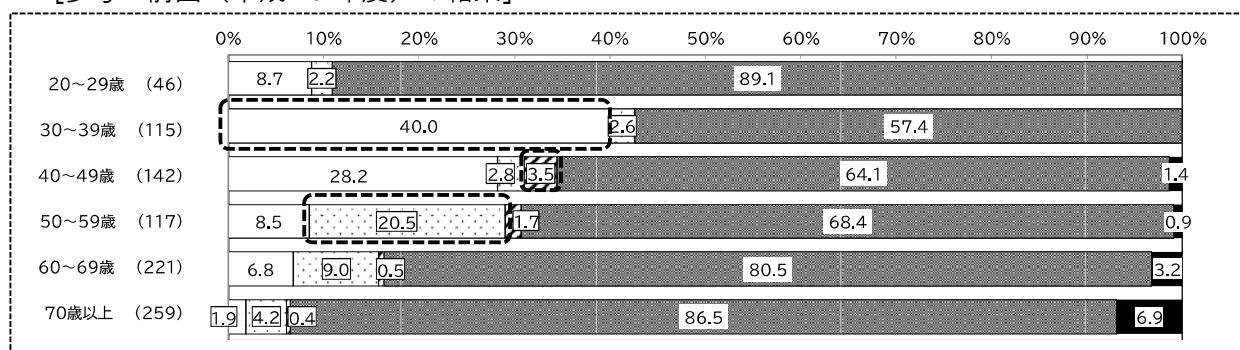
年代別でみると、「育児のみをしている」は、「40～49歳」で46.5%と多く、次いで「30～39歳」（35.0%）と続いています。一方「介護のみをしている」は、「60～64歳」で20.0%と多くなっており、次いで「50～59歳」（13.9%）と続いています。また、「育児と介護の両方をしている」は、「40～49歳」で4.2%と多く、次いで「50～59歳」（2.5%）と続いています。

また、65歳以上の方（「65～74歳」と「75歳以上」の合計値）で介護をしている（「介護のみをしている」と「育児と介護の両方をしている」の合計値）、いわゆる「老々介護」の方は、36名、65歳以上の方の9.1%となっています。

前回調査と比較すると「育児のみをしている」は「30歳代」から「40歳代（40～49歳）」に、「介護のみをしている」は「50歳代」から「60～64歳」に、最も回答が多かった年代が上がる結果となっています。一方、「育児と介護の両方をしている」はいずれの調査でも「40歳代（40～49歳）」が最も多くなっています。

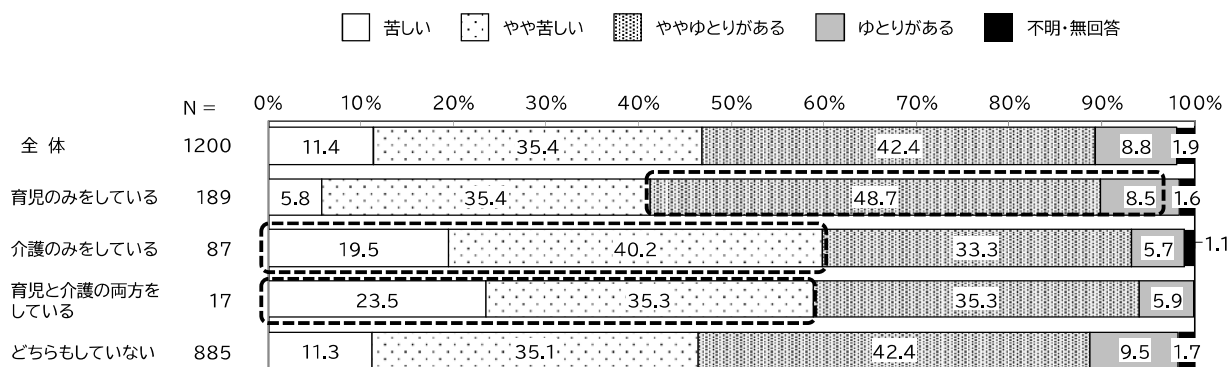


[参考：前回（平成28年度）の結果]



[くらしの状況別]

くらしの状況別（問5）でみると、「育児のみをしている」と回答した方は、約6割が《ゆとりがある》と回答しています。一方、「介護のみをしている」、「育児と介護の両方をしている」と回答した方は、約6割が《苦しい》と回答しています。



[くらしの負担内容別]

くらしの負担内容別（問6）でみると、「育児のみをしている」と回答した方は、「育児」で43.4%と多く、次いで「収入が少ない」（23.8%）と続いています。「介護のみをしている」と回答した方は、「介護」で63.2%と多くなっており、「自分や家族の健康状態」（46.0%）と続いています。「育児と介護の両方をしている」と回答した方は、「介護」と「収入が少ない」が64.7%と多くなっており、「育児」（41.2%）と続いています。

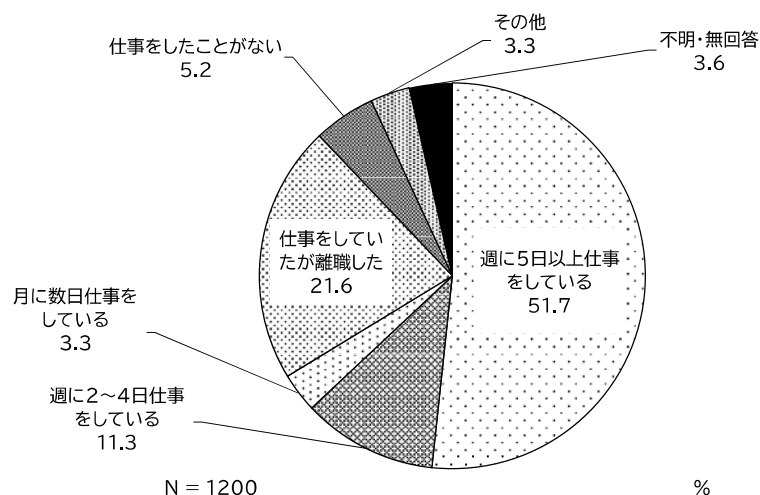
		全 体	Q6 くらしの負担内容										
			自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	人間関係（知人・近所・親戚・職場など）	住環境	職場環境（室内環境・仕事の環境など）	その他	特に負担と感じているものは	不明・無回答
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q 1 育児や介護	育児のみをしている	189	40	82	-	45	17	19	33	39	12	37	2
		100.0	21.2	43.4	-	23.8	9.0	10.1	17.5	20.6	6.3	19.6	1.1
	介護のみをしている	87	40	-	55	35	8	13	15	8	1	4	-
		100.0	46.0	-	63.2	40.2	9.2	14.9	17.2	9.2	1.1	4.6	-
	育児と介護の両方 をしている	17	3	7	11	11	1	1	4	3	3	1	-
	100.0	17.6	41.2	64.7	64.7	5.9	5.9	23.5	17.6	17.6	5.9	-	
	どちらもしていない	885	261	4	12	281	67	153	109	115	54	240	16
		100.0	29.5	0.5	1.4	31.8	7.6	17.3	12.3	13.0	6.1	27.1	1.8

※網掛けは最大値

(2) 仕事

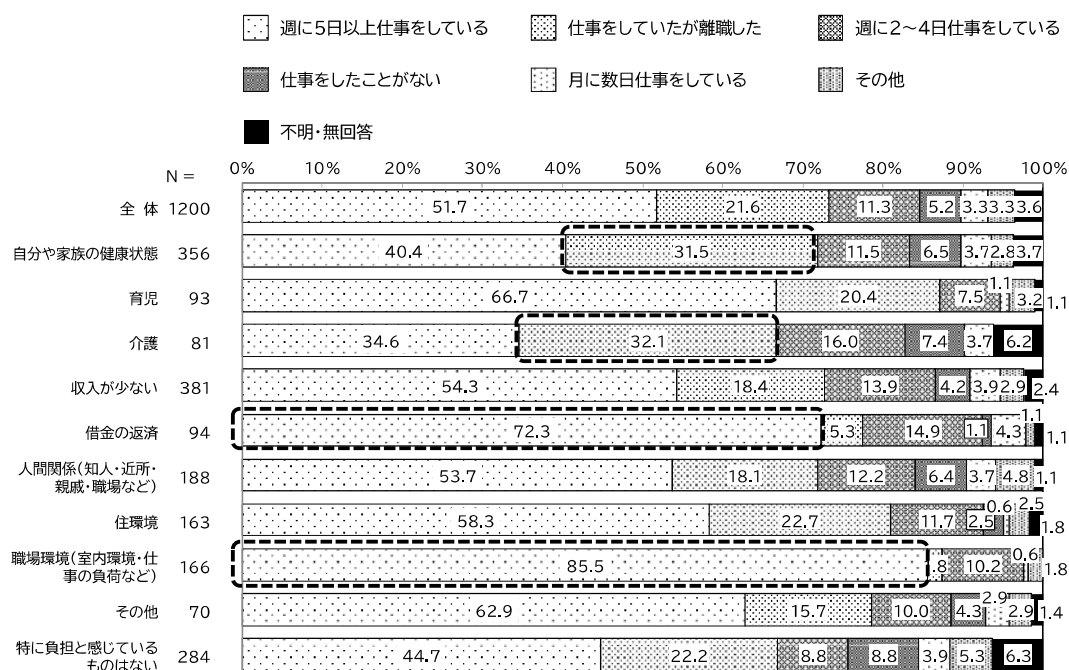
問2 収入を得る仕事をしていますか。(〇は1つのみ)

収入を得る仕事について、51.7%の方が「週に5日以上仕事をしている」と回答しています。一方で、「仕事をしていたが離職した」は、21.6%となっています。



[くらしの負担内容別]

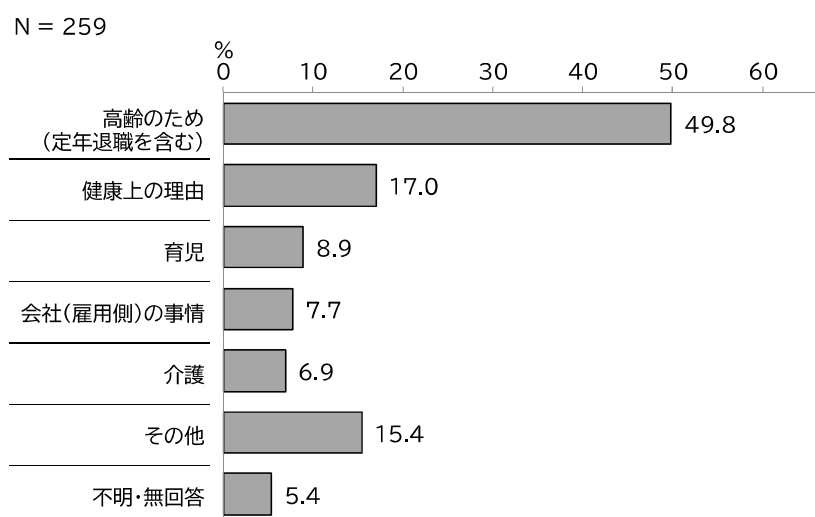
くらしの負担内容別(問6)でみると、「週に5日以上仕事をしている」は、「職場環境(室内環境・仕事の負荷など)」で85.5%と多く、次いで「借金の返済」(72.3%)と続いています。一方「仕事をしていたが離職した」は、「介護」で32.1%と多く、次いで「自分や家族の健康状態」(31.5%)と続いています。



(3) 離職理由

問2-1【問2で「4 仕事をしていましたが離職した」を回答した方へ】
離職の原因はなんですか。（○はいくつでも）

離職の原因は、「高齢のため（定年退職を含む）」（49.8%）が最も多く、次いで「健康上の理由」（17.0%）と続いています。



[年代別]

年代別でみると、「育児」は、「30～39歳」や「40～49歳」で多く、約4割の方が回答しています。一方「介護」は、「50～59歳」で多く、約2割の方が回答しています。また、「介護」は、「20歳未満」から「40～49歳」で回答者がいないことから、「介護」が理由で離職した人がいない状況となっています。

		全 体	Q2.1 離職理由						
			育 児	介 護	健康上の理由	会社（雇用側）の事情	高齢のため（定年退職を含む）	その他	不明・無回答
全体	件数	259	23	18	44	20	129	40	14
	割合(%)	100.0	8.9	6.9	17.0	7.7	49.8	15.4	5.4
Q33年代	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	5	-	-	1	-	-	4	1
		100.0	-	-	20.0	-	-	80.0	20.0
	30～39歳	24	10	-	3	3	-	9	1
		100.0	41.7	-	12.5	12.5	-	37.5	4.2
	40～49歳	18	8	-	3	3	-	4	-
		100.0	44.4	-	16.7	16.7	-	22.2	-
	50～59歳	21	2	4	6	2	-	8	2
		100.0	9.5	19.0	28.6	9.5	-	38.1	9.5
	60～64歳	25	-	3	8	3	10	5	-
		100.0	-	12.0	32.0	12.0	40.0	20.0	-
	65～74歳	74	2	9	14	3	45	5	5
		100.0	2.7	12.2	18.9	4.1	60.8	6.8	6.8
	75歳以上	88	1	2	8	6	71	4	5
		100.0	1.1	2.3	9.1	6.8	80.7	4.5	5.7

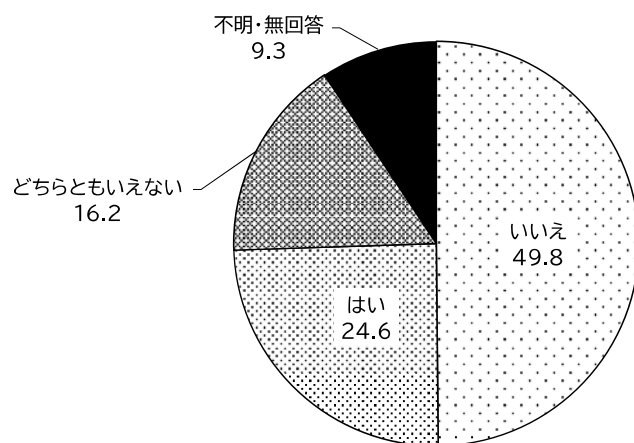
※網掛けは最大値

(4) 就労意欲

問2-2【問2で「4 仕事をしていたが離職した」「5 仕事をしたことがない」を回答した方へ】

今後、仕事に就きたいと思いますか。(○は1つのみ)

今後の就労意欲について、49.8%の方が「いいえ」と回答しています。一方、「はい」と回答した方は、24.6%となっています。

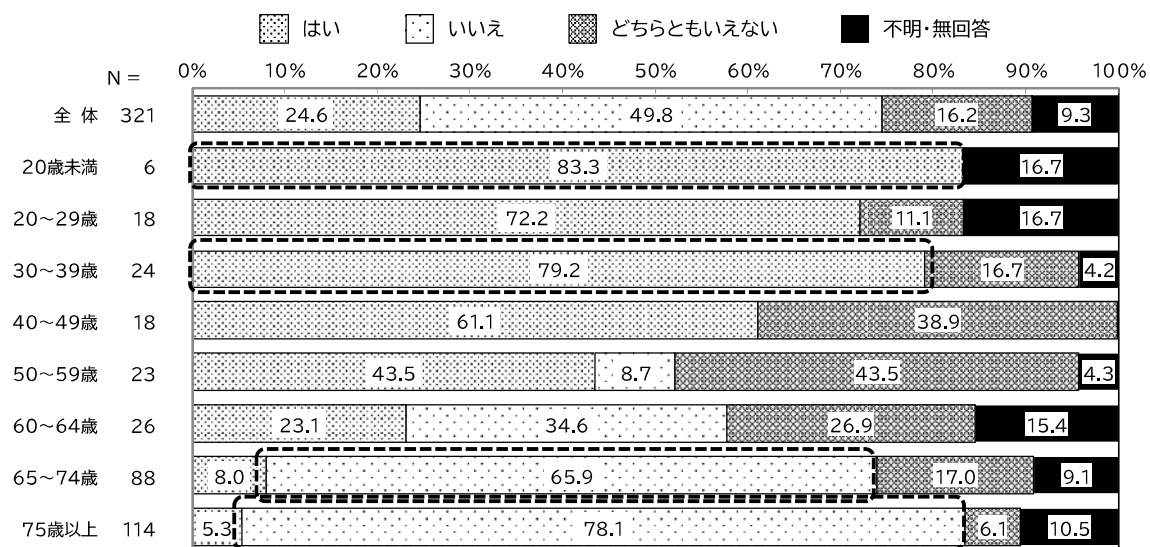


N = 321

%

[年代別]

年代別でみると、「はい」は、「20歳未満」で83.3%と多く、次いで「30～39歳」(79.2%)と続いています。一方「いいえ」は、「75歳以上」で78.1%と多く、次いで「65～74歳」(65.9%)と続いています。



(5) ひきこもり状態にある方

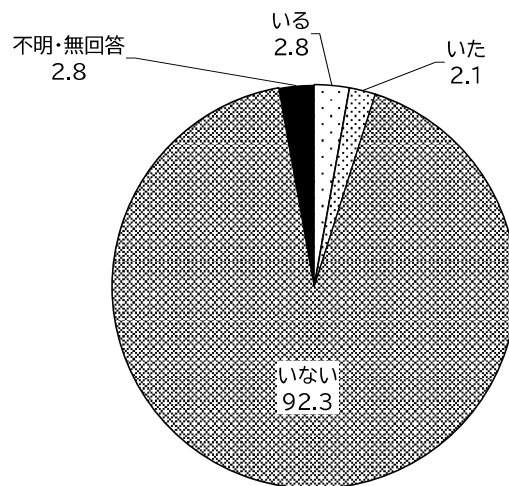
問3 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある（あった）方*はいますか。（○は1つのみ）

*本調査における「ひきこもり状態にある（あった）方」とは、仕事や学校等に行くことができず、かつ、家族以外の人との交流をほとんどすることができず、次のいずれかに該当する方をいいます。

①自宅や自室に閉じこもっている状態の方／②時々買い物などで外出することがある方
※ただし、加齢による寝たきり、重度の身体や内臓の障害・疾患により外出が困難な方を除きます。

ひきこもり状態の方がいる世帯は2.8%、過去にいた世帯も含めると4.9%にのぼります。豊島区の世帯数181,160世帯*に上記結果を当てはめると、ひきこもり状態の方がいる世帯は5,072世帯、過去にいた世帯も含めると8,877世帯にのぼると推計されます。仮にひきこもり状態の方がいる世帯につき、1人のひきこもりの方がいると想定すると、総人口288,563人※に対して、ひきこもり状態の方の割合は1.76%にのぼると推計されます。これは内閣府の推計（参考1）より高い水準です。

※住民基本台帳：令和4年10月1日現在の数値です。



N = 1200

%

（参考1）内閣府のひきこもりに対する調査では、15歳～39歳でその世代の人口の157%、40～64歳でその世代の人口の145%がひきこもり状態にあると推計されたとの調査結果を公表しています。

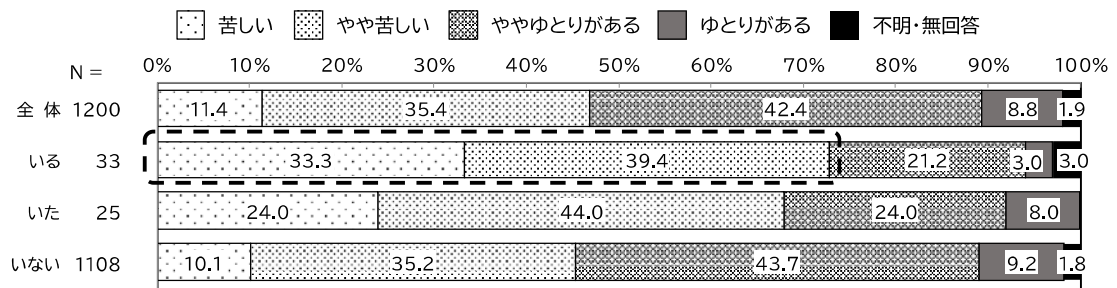
内閣府では、平成21年度と平成27年度に、満15歳から満39歳までの者を対象にひきこもりの実態調査を実施。また、平成30年度に、満40歳から満64歳までの者を対象とするひきこもりの実態調査を実施。

（参考2）江戸川区では、区内に9,096人（江戸川区民約76人に1人）のひきこもり当事者がいるとの調査結果を公表しています。

江戸川区では令和3年7月から令和4年2月にかけて、ひきこもりなどに関する大規模調査を実施。調査結果から、ひきこもり当事者を抱える世帯数は7,604世帯、ひきこもり当事者は7,919人（1世帯当たりのひきこもり状態の方の人員1.04人）いることが判明し、不登校児童生徒等江戸川区が把握している数値を合わせると同区内に9,096人のひきこもり当事者がいると公表。（調査結果と令和4年1月1日時点の世帯数：345,803世帯を比較すると約2.2%の世帯でひきこもり当事者を抱える世帯がいることが推計される）

[くらしの状況別]

くらしの状況別（問5）でみると、回答者全体では、《苦しい》と感じている方は4割台半ばとなっているのに対し、ひきこもり状態の方がいる世帯では、7割に上ります。



[くらしの負担内容別]

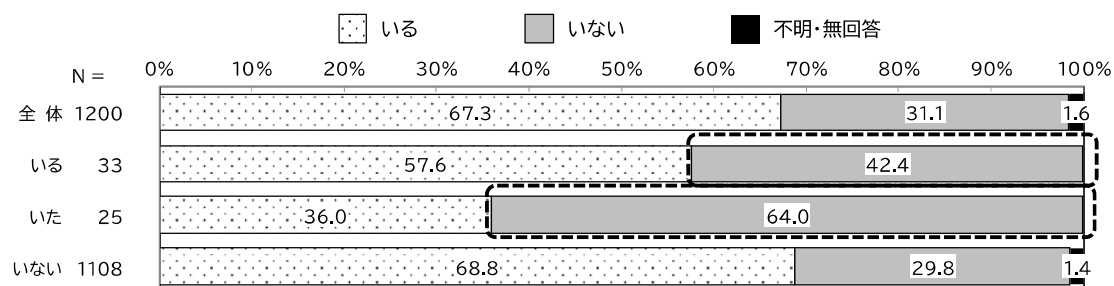
くらしの負担内容（問6）について、ひきこもり状態の方がいる世帯では、「自分や家族の健康状態」（48.5%）が最も多く、次いで、「収入が少ない」（39.4%）と続きます。負担の内容をひきこもり状態にある方がいない世帯と比較すると、ひきこもり状態の方がいる世帯の方が、「職場環境」、「育児」を除くすべての項目で負担と回答する割合が高くなっています。

		全 体	Q6 くらしの負担内容										
			自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	人・親戚・職場など	人間関係（知人・近所・職場など）	住環境	職場環境（室内環境・仕事の負担など）	その他	特には負担と感じていない
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q3 状態にある方	いる	33	16	1	5	13	3	6	5	3	5	4	-
		100.0	48.5	3.0	15.2	39.4	9.1	18.2	15.2	9.1	15.2	12.1	-
	いた	25	14	5	1	12	5	7	3	4	3	1	-
		100.0	56.0	20.0	4.0	48.0	20.0	28.0	12.0	16.0	12.0	4.0	-
	いない	1108	313	86	74	342	83	175	150	156	61	271	18
		100.0	28.2	7.8	6.7	30.9	7.5	15.8	13.5	14.1	5.5	24.5	1.6

※網掛けは最大値

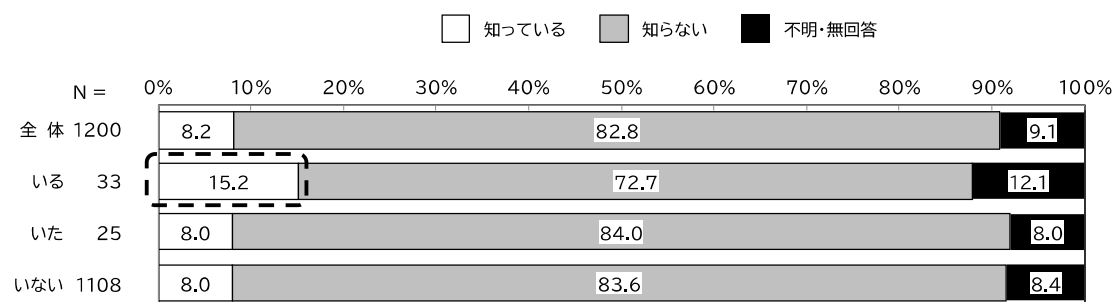
[相談できる方の有無別]

相談できる方（問 8）について、相談できる方が「いない」と回答した方の割合は、ひきこもり状態の方が「いない」世帯（29.8%）と比べ、ひきこもり状態の方が「いる」世帯（42.4%）や、過去に「いた」世帯（64.0%）の方が高くなっています。



[ひきこもり相談窓口の認知度別]

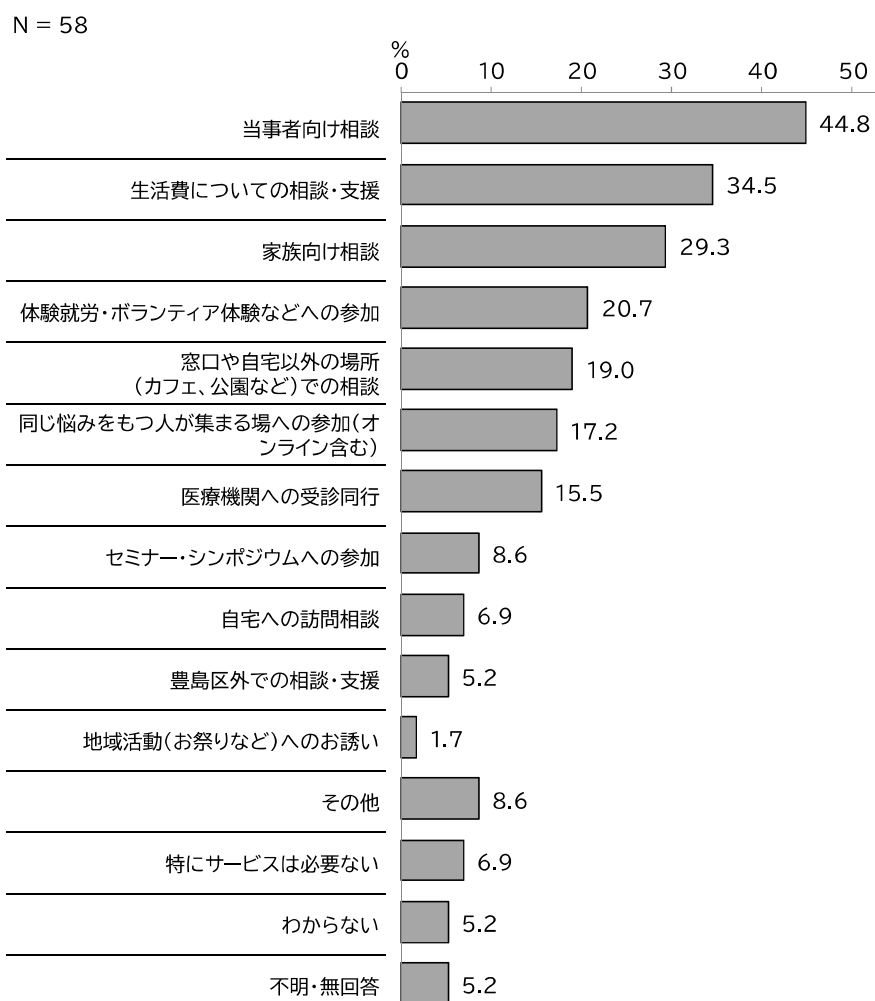
ひきこもり相談窓口（問 24）については、82.8%の方が「知らない」と回答しています。一方、ひきこもり状態の方が「いる」世帯では、相談窓口を「知っている」（15.2%）が、ひきこもり状態の方が「いた」世帯や「いない」世帯より多くなっています。



(6) ひきこもり状態にある（あった）方で受けたい（受けたかった）サービス

問3-1 ひきこもり状態にある方について、どのようなサービスを受けたいと思いますか。過去ひきこもり状態にあった方については、どのようなサービスを受けたかったか、お答えください。（○はいくつでも）

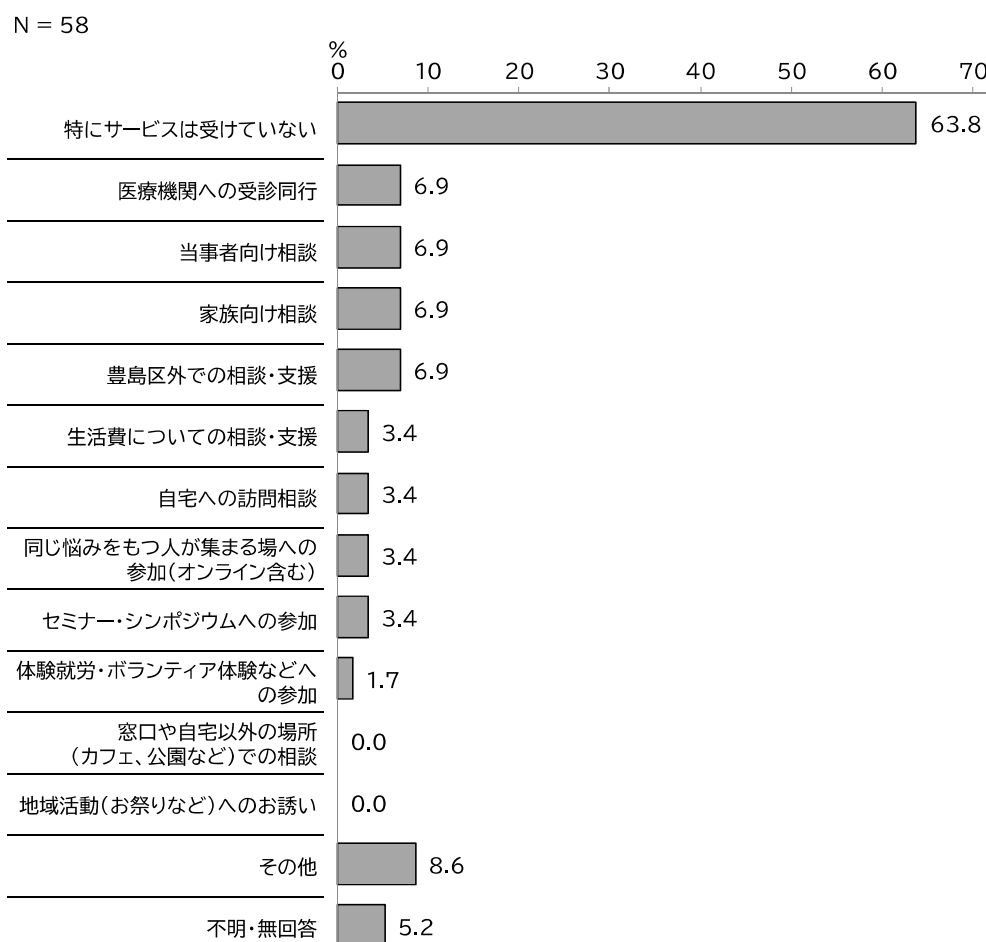
ひきこもり状態にある（あった）方について受けたい（受けたかった）サービスは、「当事者向け相談」（44.8%）が最も多く、次いで「生活費についての相談・支援」（34.5%）、「家族向け相談」（29.3%）、と続いています。



(7) ひきこもり状態で受けている（受けていた）サービス

問3-2 ひきこもり状態にある方について、現在、どのようなサービスを受けていますか。過去ひきこもり状態にあった方については、どのようなサービスを受けていたか、お答えください。（〇はいくつでも）

ひきこもり状態の方がいる世帯で受けているサービスをみると、「特にサービスは受けていない」（63.8%）が最も多く、次いで「医療機関への受診同行」、「当事者向け相談」、「家族向け相談」、「豊島区外での相談・支援」（それぞれ6.9%）、と続いています。

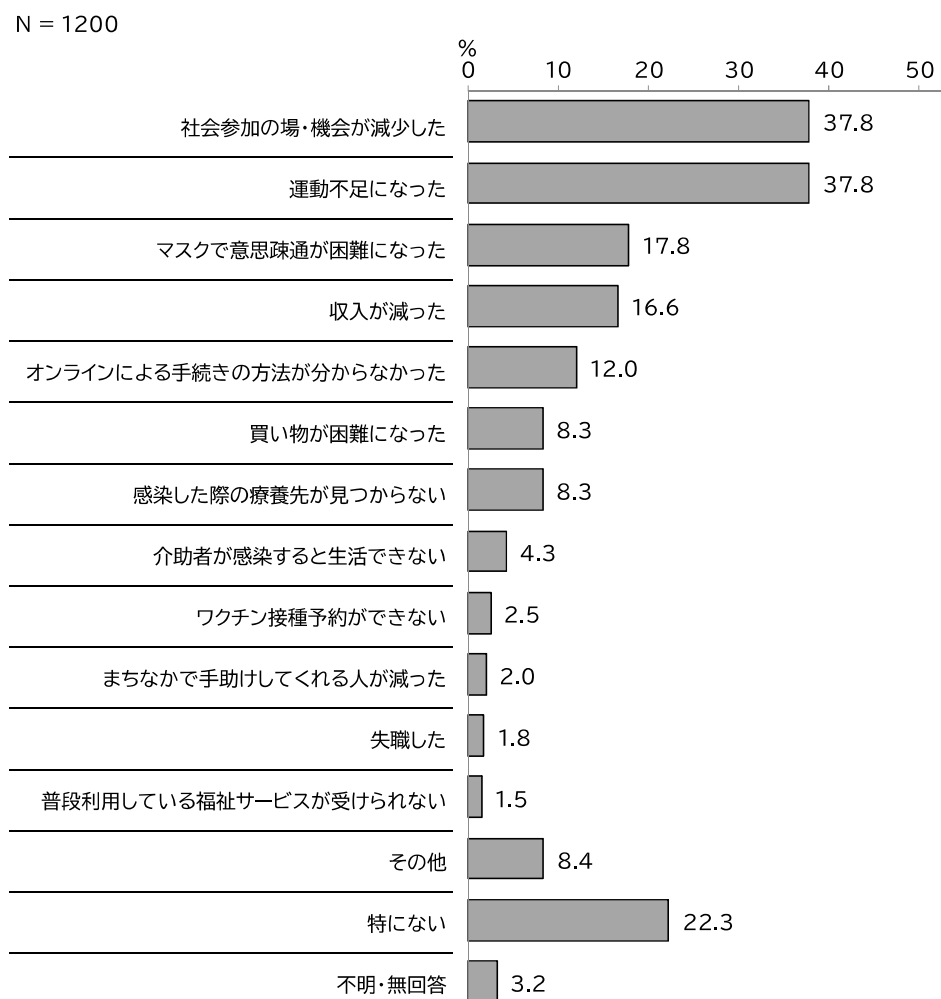


(8) 新型コロナウイルス感染症

問4 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、新たな困りごととしてどのようなものがありますか。(〇は1つのみ)

新型コロナウイルス感染症が拡大する中での新たな困りごととしては、「社会参加の場・機会が減少した」と「運動不足になった」(37.8%)が最も多くなっています。

令和4年10月から11月にかけて、障害者等実態・意向調査を実施し、本調査と同一の設問にて調査を行いました。調査結果から、本調査と同様、回答率が多かった順に「社会参加の場・機会が減少した」、「運動不足になった」と続いています。回答率を比べると、本調査よりもそれぞれ約10ポイント低い状況がみられました。また、「介助者が感染すると生活ができない」と回答された方は、本調査よりも、約6ポイント高い結果がみられました。最後に、調査票種別で見ると、それぞれ最も多い項目は異なりますが、聴覚障害の方は「マスクで意思疎通が困難になった」が46.2%と最も多くなっています。



[参考：障害者等実態・意向調査結果との比較]

			全 体	コロナ禍で生じた新たな困りごと								
				社会参加の場・機会が減少した	買い物に困難になった	運動不足になった	オンラインによる手続きの方法が分からない	ワクチン接種予約ができない	収入が減った	失職した	マスクで意思疎通が困難になった	介護者が感染すると生活ができない
本調査 全体		件 %	1200 100.0	454 37.8	100 8.3	454 37.8	144 12.0	30 2.5	199 16.6	22 1.8	213 17.8	51 4.3
全 体		件 %	2140 100.0	595 27.8	209 9.8	547 25.6	186 8.7	51 2.4	195 9.1	48 2.2	222 10.4	226 10.6
調査票種別	身体(計)	件 %	1161 100.0	253 21.8	134 11.5	300 25.8	122 10.5	29 2.5	95 8.2	21 1.8	119 10.2	138 11.9
	視覚障害	件 %	90 100.0	13 14.4	13 14.4	18 20.0	21 23.3	3 3.3	2 2.2	1 1.1	9 10.0	9 10.0
	聴覚障害	件 %	93 100.0	15 16.1	8 8.6	22 23.7	12 12.9	2 2.2	10 10.8	2 2.2	43 46.2	7 7.5
	平衡機能障害	件 %	21 100.0	5 23.8	1 4.8	4 19.0	2 9.5	-	2 9.5	-	2 9.5	3 14.3
	音声・言語・そ しゃく機能の障害	件 %	19 100.0	4 21.1	3 15.8	3 15.8	1 5.3	1 5.3	-	-	1 5.3	6 31.6
	肢体不自由	件 %	484 100.0	110 22.7	54 11.2	128 26.4	43 8.9	16 3.3	44 9.1	9 1.9	30 6.2	87 18.0
	内部障害	件 %	324 100.0	84 25.9	37 11.4	97 29.9	40 12.3	8 2.5	30 9.3	10 3.1	24 7.4	26 8.0
	知的	件 %	272 100.0	76 27.9	29 10.7	72 26.5	18 6.6	7 2.6	17 6.3	4 1.5	16 5.9	28 10.3
	精神	件 %	191 100.0	57 29.8	12 6.3	42 22.0	23 12.0	8 4.2	17 8.9	9 4.7	21 11.0	4 2.1
	難病	件 %	211 100.0	57 27.0	17 8.1	57 27.0	15 7.1	2 0.9	36 17.1	10 4.7	14 6.6	8 3.8
	障害児	件 %	305 100.0	152 49.8	17 5.6	76 24.9	8 2.6	5 1.6	30 9.8	4 1.3	52 17.0	48 15.7
				全 体	コロナ禍で生じた新たな困りごと							
					減 ま ち っ た な か で 手 助 け し て く れ る 人 が	普 段 利 用 し て い る 福 祉 サ ー ビ ス が	い 感 染 し た 際 の 療 養 先 が 見 つ か ら な い	そ の 他	特 に な し	不 明		
	本調査 全体		件 %	1200 100.0	24 2.0	18 1.5	100 8.3	101 8.4	267 22.3	38 3.2		
全 体		件 %	2140 100.0	49 2.3	113 5.3	225 10.5	131 6.1	508 23.7	220 10.3			
調査票種別	身体(計)	件 %	1161 100.0	32 2.8	59 5.1	120 10.3	60 5.2	281 24.2	120 10.3			
	視覚障害	件 %	90 100.0	7 7.8	3 3.3	6 6.7	6 6.7	26 28.9	4 4.4			
	聴覚障害	件 %	93 100.0	1 1.1	3 3.2	11 11.8	5 5.4	17 18.3	3 3.2			
	平衡機能障害	件 %	21 100.0	1 4.8	3 14.3	1 4.8	-	6 28.6	2 9.5			
	音声・言語・そ しゃく機能の障害	件 %	19 100.0	-	3 15.8	2 10.5	1 5.3	3 15.8	3 15.8			
	肢体不自由	件 %	484 100.0	14 2.9	37 7.6	54 11.2	22 4.5	118 24.4	36 7.4			
	内部障害	件 %	324 100.0	3 0.9	6 1.9	40 12.3	21 6.5	84 25.9	18 5.6			
	知的	件 %	272 100.0	2 0.7	17 6.3	18 6.6	13 4.8	75 27.6	42 15.4			
	精神	件 %	191 100.0	4 2.1	13 6.8	28 14.7	19 9.9	46 24.1	19 9.9			
	難病	件 %	211 100.0	5 2.4	3 1.4	25 11.8	14 6.6	56 26.5	16 7.6			
	障害児	件 %	305 100.0	6 2.0	21 6.9	34 11.1	25 8.2	50 16.4	23 7.5			

[年代別]

年齢別でみると、「社会参加の場・機会が減少した」については、「20～29 歳」、「30～39 歳」、「40～49 歳」、「60～64 歳」で最も多くなっています。「運動不足になった」は、「65～74 歳」や「75 歳以上」で5割近くと、他の世代に比べて高くなっています。

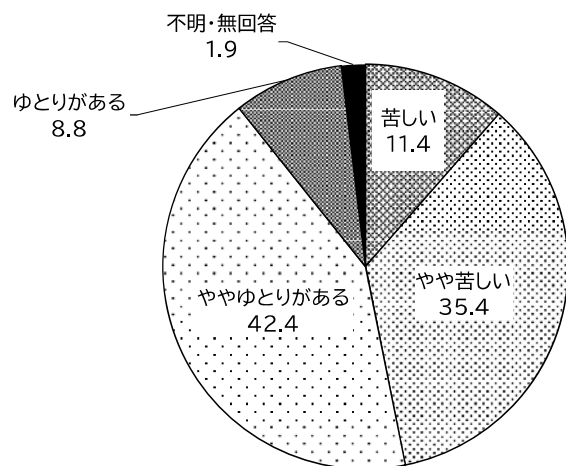
		全 体	Q4 新型コロナウイルス感染症														
			少 社 会 参 加 の 場 ・ 機 会 が 減 少 し た	買 い 物 が 困 難 に な っ た	運 動 不 足 に な っ た	オ ン ラ イン に よ る 手 続 き が 分 か ら な か っ た	フ ク チ ン 接 種 予 約 が で き な い	収 入 が 減 っ た	失 職 し た	マ ス ク で 意 思 疎 通 が 困 難 に な っ た	介 助 者 が 感 染 す る と 生 活 で き な い	ま ち な か で 手 助 け し て く れ る 人 が 減 っ た	サ ー ビ ス が 受 け ら れ な い 福 祉 社 会	感 染 し た 際 の 療 養 先 が 見 え な い	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体	件数	1200	454	100	454	144	30	199	22	213	51	24	18	100	101	267	38
	割合 (%)	100.0	37.8	8.3	37.8	12.0	2.5	16.6	1.8	17.8	4.3	2.0	1.5	8.3	8.4	22.3	3.2
Q 3 3 年 代	20歳未満	10	3	-	3	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	4	-
		100.0	30.0	-	30.0	10.0	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	40.0	-
	20～29歳	110	48	4	36	12	3	24	2	21	3	4	1	9	6	25	1
		100.0	43.6	3.6	32.7	10.9	2.7	21.8	1.8	19.1	2.7	3.6	0.9	8.2	5.5	22.7	0.9
	30～39歳	177	74	17	57	6	4	26	5	41	5	5	5	17	27	37	6
		100.0	41.8	9.6	32.2	3.4	2.3	14.7	2.8	23.2	2.8	2.8	2.8	9.6	15.3	20.9	3.4
	40～49歳	215	88	13	81	15	8	33	4	46	6	4	1	17	25	41	4
		100.0	40.9	6.0	37.7	7.0	3.7	15.3	1.9	21.4	2.8	1.9	0.5	7.9	11.6	19.1	1.9
	50～59歳	202	59	12	69	27	10	49	4	32	12	4	3	21	23	46	3
		100.0	29.2	5.9	34.2	13.4	5.0	24.3	2.0	15.8	5.9	2.0	1.5	10.4	11.4	22.8	1.5
60～64歳	80	31	6	22	10	3	16	1	10	4	1	1	9	5	17	-	
		100.0	38.8	7.5	27.5	12.5	3.8	20.0	1.3	12.5	5.0	1.3	1.3	11.3	6.3	21.3	-
	195	79	15	91	41	1	34	3	32	6	2	3	11	7	49	3	
		100.0	40.5	7.7	46.7	21.0	0.5	17.4	1.5	16.4	3.1	1.0	1.5	5.6	3.6	25.1	1.5
75歳以上	199	67	31	91	31	1	15	2	26	15	4	4	16	7	44	19	
		100.0	33.7	15.6	45.7	15.6	0.5	7.5	1.0	13.1	7.5	2.0	2.0	8.0	3.5	22.1	9.5

※網掛けは最大値

(9) くらしの状況

問5 現在のくらしの状況をどう感じていますか。(○は1つのみ)

現在のくらしの状況について、42.4%の方が「ややゆとりがある」と回答しており、「ゆとりがある」(8.8%)と合わせた《ゆとりがある》と感じている方は51.2%となっています。一方「苦しい」(11.4%)と「やや苦しい」(35.4%)を合わせた《苦しい》と感じている方は46.8%となっています。

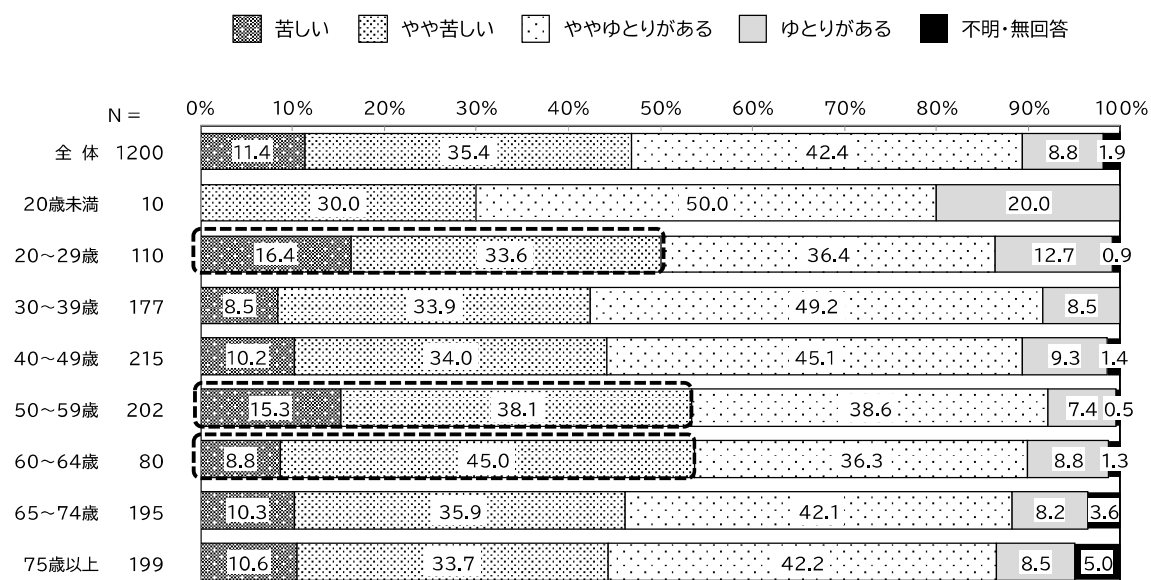


N = 1200

%

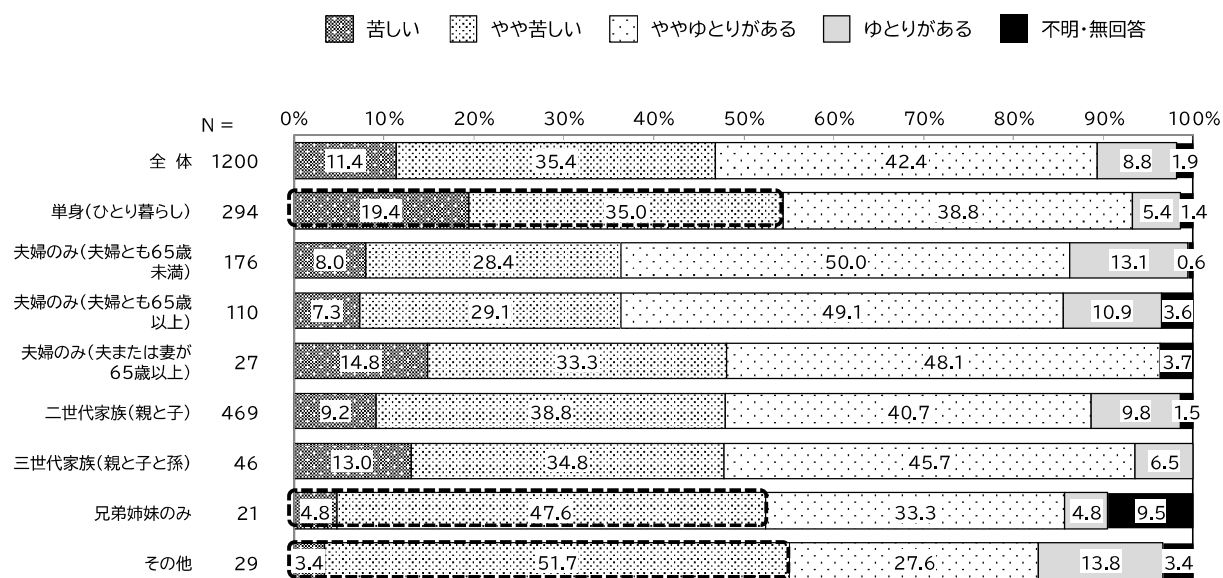
[年代別]

年代別でみると、《苦しい》と感じている方は、「60～64歳」（53.8%）が最も多く、次いで、「50～59歳」（53.4%）、「20～29歳」（50.0%）となっています。これらの年代は《苦しい》が《ゆとりがある》を上回っています。



[家族構成別]

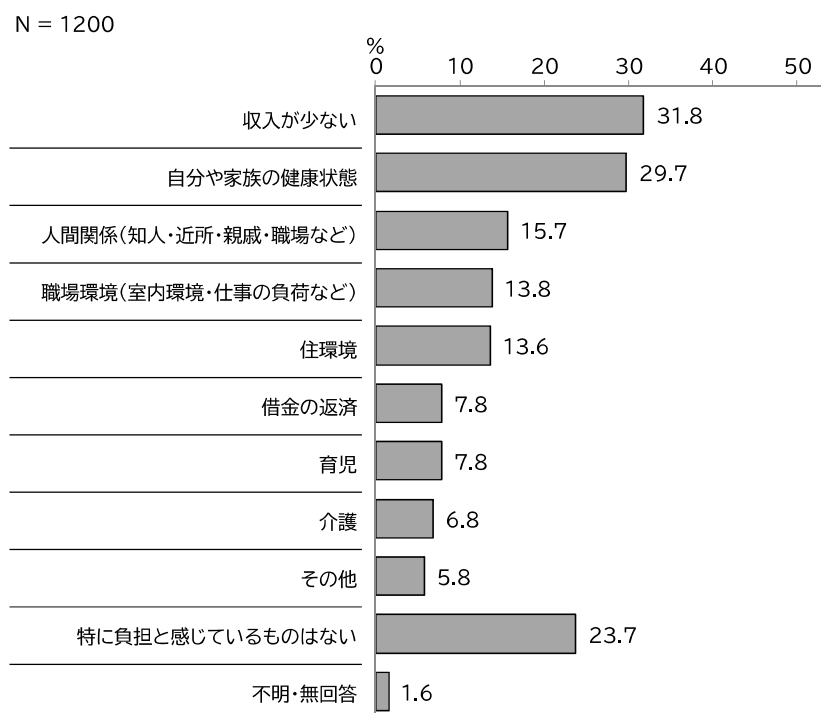
家族構成別でみると、「単身（ひとり暮らし）」（54.4%）、「兄弟姉妹のみ」（52.4%）、「その他」（55.1%）で《ゆとりがある》より《苦しい》が多くなっています。



(10) 暮らしの負担内容

問6 暮らしの中で負担が大きいと感じているものは何ですか。（〇はいくつでも）

暮らしの中で負担が大きいと感じているものは、「収入が少ない」（31.8%）が最も多く、次いで「自分や家族の健康状態」（29.7%）と続いています。一方「特に負担と感じているものはない」は23.7%となっています。



[年代別]

年代別でみると、「20～29 歳」から「40～49 歳」では、「収入が少ない」が最も多いのに対して、「50～59 歳」以上の年代では「自分や家族の健康状態」が最も多くなっています。

			Q6 くらしの負担内容											
			自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	人間関係（知人・近所・親戚・職場など）	住環境	職場環境（室内環境・仕事）の負担など	その他	特に負担と感じているものはない	不明・無回答	
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19	
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6	
Q33 年代	20歳未満	10 100.0	1 10.0	- -	1 10.0	2 20.0	- -	1 10.0	- -	1 10.0	1 10.0	4 40.0	- -	
	20～29歳	110 100.0	16 14.5	2 1.8	1 0.9	54 49.1	12 10.9	29 26.4	11 10.0	22 20.0	5 4.5	24 21.8	- -	
	30～39歳	177 100.0	39 22.0	34 19.2	3 1.7	59 33.3	12 6.8	31 17.5	37 20.9	34 19.2	13 7.3	39 22.0	1 0.6	
	40～49歳	215 100.0	45 20.9	41 19.1	8 3.7	65 30.2	19 8.8	38 17.7	26 12.1	49 22.8	14 6.5	48 22.3	3 1.4	
	50～59歳	202 100.0	67 33.2	10 5.0	25 12.4	61 30.2	28 13.9	40 19.8	41 20.3	45 22.3	17 8.4	26 12.9	3 1.5	
	60～64歳	80 100.0	26 32.5	- -	9 11.3	24 30.0	7 8.8	9 11.3	5 6.3	6 7.5	5 6.3	25 31.3	- -	
	65～74歳	195 100.0	79 40.5	3 1.5	20 10.3	64 32.8	12 6.2	22 11.3	27 13.8	5 2.6	10 5.1	40 20.5	4 2.1	
	75歳以上	199 100.0	80 40.2	1 0.5	13 6.5	50 25.1	4 2.0	18 9.0	14 7.0	3 1.5	4 2.0	74 37.2	8 4.0	

※網掛けは最大値

[家族構成別]

家族構成別でみると、「単身（ひとり暮らし）」や「兄弟姉妹のみ」の場合「収入が少ない」が最も多くなっています。

		全 体	Q6 くらしの負担内容										
			自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	人間関係（知人・近所・親戚・職場など）	住環境	職場環境（室内環境・仕事）	その他	特に負担と感じているものはない	不明・無回答
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q34 家族構成	単身(ひとり暮らし)	294	87	2	7	121	26	65	52	44	22	58	3
		100.0	29.6	0.7	2.4	41.2	8.8	22.1	17.7	15.0	7.5	19.7	1.0
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	176	38	3	5	47	10	33	19	28	14	50	2
		100.0	21.6	1.7	2.8	26.7	5.7	18.8	10.8	15.9	8.0	28.4	1.1
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	110	45	-	7	28	3	10	9	4	3	37	4
		100.0	40.9	-	6.4	25.5	2.7	9.1	8.2	3.6	2.7	33.6	3.6
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	27	11	1	3	5	2	5	4	1	-	5	2
		100.0	40.7	3.7	11.1	18.5	7.4	18.5	14.8	3.7	-	18.5	7.4
	二世世代家族(親と子)	469	137	77	44	135	46	62	65	71	27	101	6
		100.0	29.2	16.4	9.4	28.8	9.8	13.2	13.9	15.1	5.8	21.5	1.3
Q35 その他	三世世代家族(親と子と孫)	46	16	8	7	14	2	4	3	8	1	14	-
		100.0	34.8	17.4	15.2	30.4	4.3	8.7	6.5	17.4	2.2	30.4	-
	兄弟姉妹のみ	21	8	-	1	8	-	2	6	2	1	7	-
		100.0	38.1	-	4.8	38.1	-	9.5	28.6	9.5	4.8	33.3	-
Q36 その他	その他	29	4	-	2	13	3	5	3	6	1	5	1
		100.0	13.8	-	6.9	44.8	10.3	17.2	10.3	20.7	3.4	17.2	3.4

※網掛けは最大値

4 住民同士の支え合いや助け合い

地域住民同士の支え合いや助け合いの状況を整理するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出しました。

■結果の概要

【地域や人とのつながりの状況】

地域では「あいさつをする程度」の比較的軽い近所付き合いが全体の6割を占め、「ほとんど付き合いがない」方は、前回調査との比較で増加傾向にあります。特に「単身（ひとり暮らし）」では「地域との付き合いがない」、「相談する人がいない」方の割合が他の属性より高い傾向があります。

【支え合いや助け合いの状況】

住民同士の支え合いや助け合いの必要性は8割の方が感じていますが、前回、前々回調査と比べると、必要だと思う方の割合が減少しています。

支え合いや助け合いに必要な取り組みとしては、「気軽に集まれる場所」、「住民相互の交流活動」といった取り組みが求められる一方、行政からの支援への期待が高まる傾向も見られます。

一方、住民同士の支え合い等を必要としない理由としては、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がない」、「友人や知人との結びつき」などが挙げられています。

生活に困りごとを抱えている方に対する手助けをしている方は3割で、その多くは「あいさつや声掛け」となっています。一方、手助けをしない理由としては、「困りごとを抱えている方がいるかわからない」、「手助けを求めているかわからない」が多くなっています。

■調査結果から見受けられる課題について

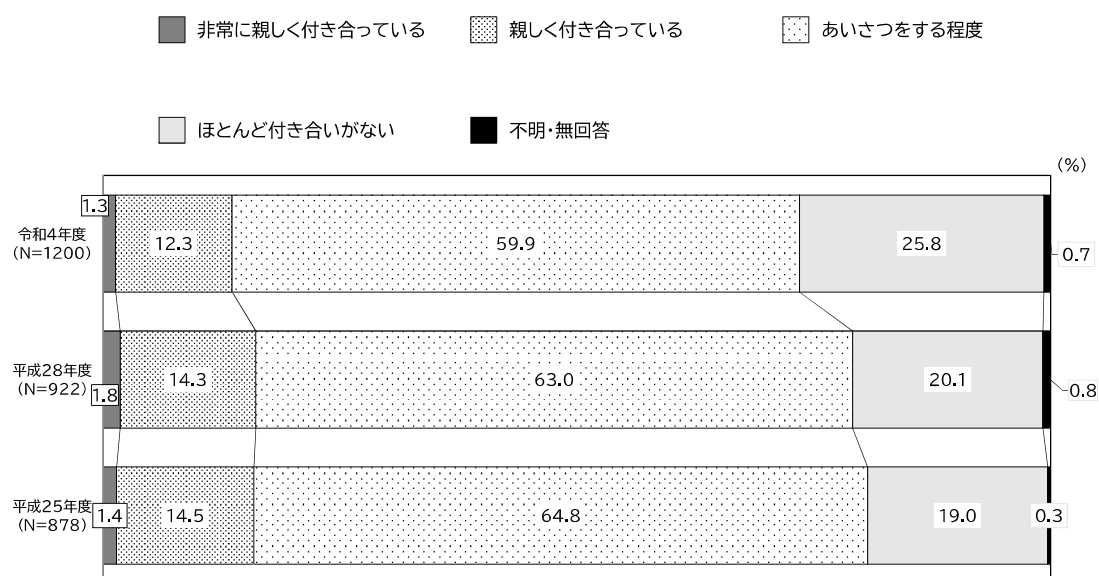
- ・地域付き合いが希薄化する中で、手助けを求める方に支援や手助けを届けられる環境づくり
- ・若い世代（20代等）、単身（ひとり暮らし）、共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）住まいの方など、地域とのつながりが少ない方々と地域とのつながりや支え合い等のあり方

(1) 近所付き合いの程度

問7 日頃、ご近所の方とどの程度お付き合いをしていますか。(○は1つのみ)

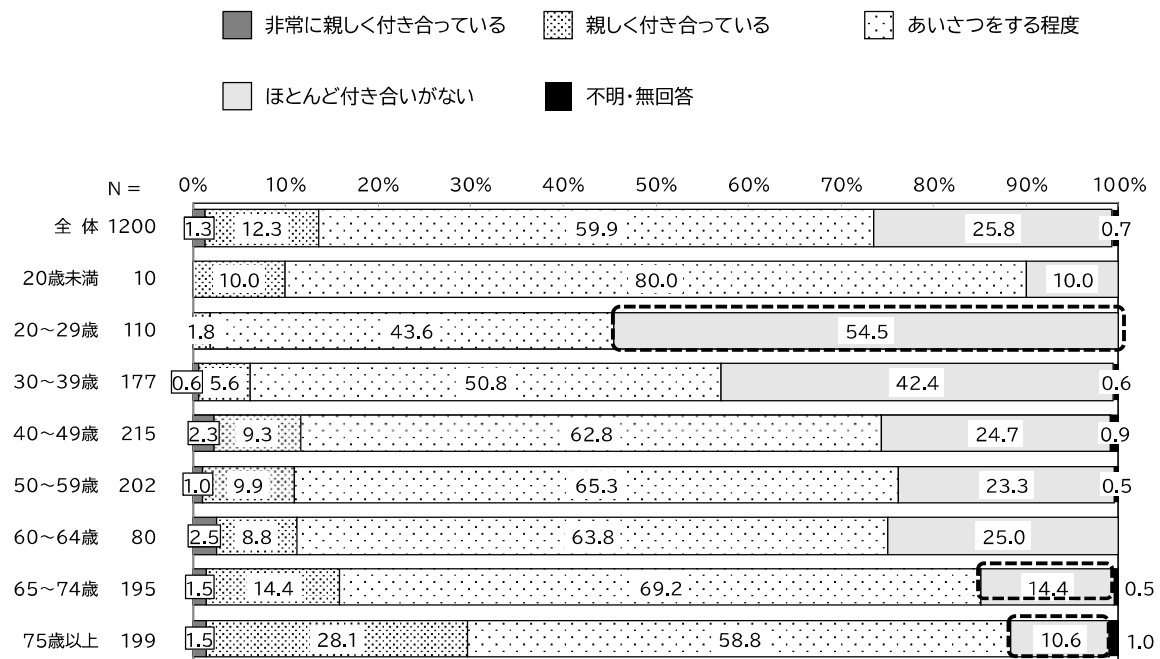
近所の方とは「あいさつをする程度」と回答した方が59.9%を占めています。

前回調査と比べると、「あいさつをする程度」で3.1ポイント、「親しく付き合っている」で2.0ポイント、「非常に親しく付き合っている」で0.5ポイント回答した割合が減り、「ほとんど付き合いがない」が5.7ポイント増えています。



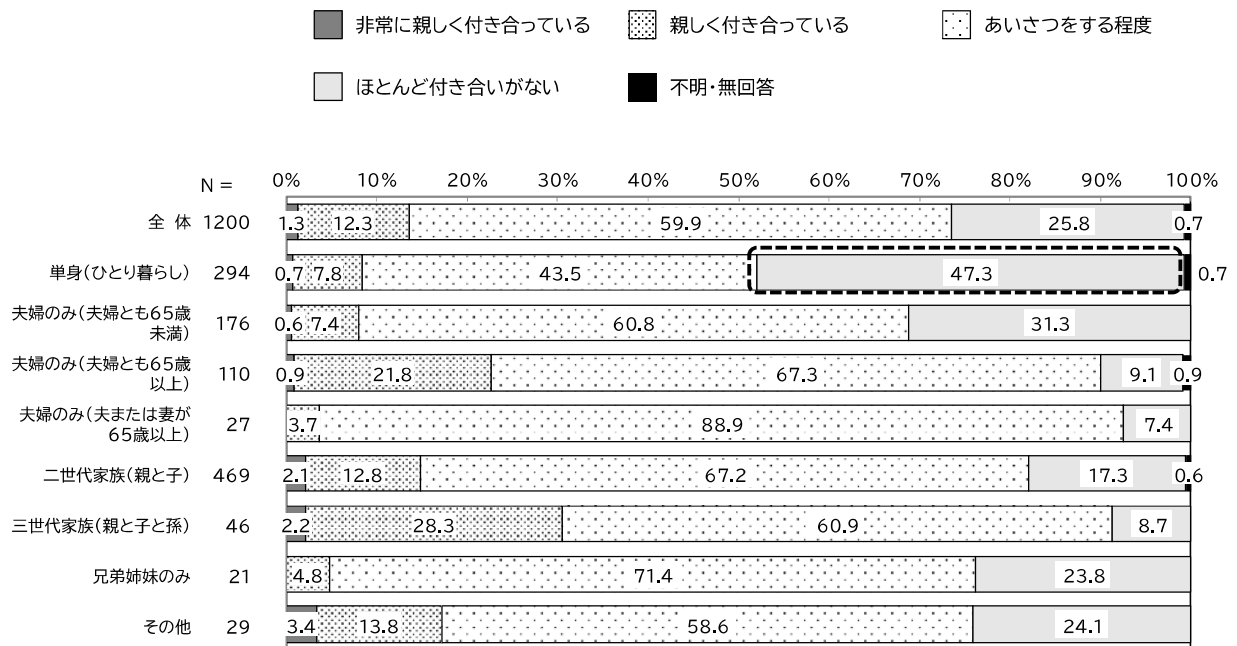
〔年代別〕

年代別でみると、「ほとんど付き合いがない」は、「20～29 歳」で最も多く、5 割を超えます。「65～74 歳」、「75 歳以上」になると、その割合は 1 割台まで減少しています。



〔家族構成別〕

家族構成別でみると、「ほとんど付き合いがない」は、「単身（ひとり暮らし）」（47.3%）で最も多くなっています。



[家族構成別（単身（ひとり暮らし））・年代別]

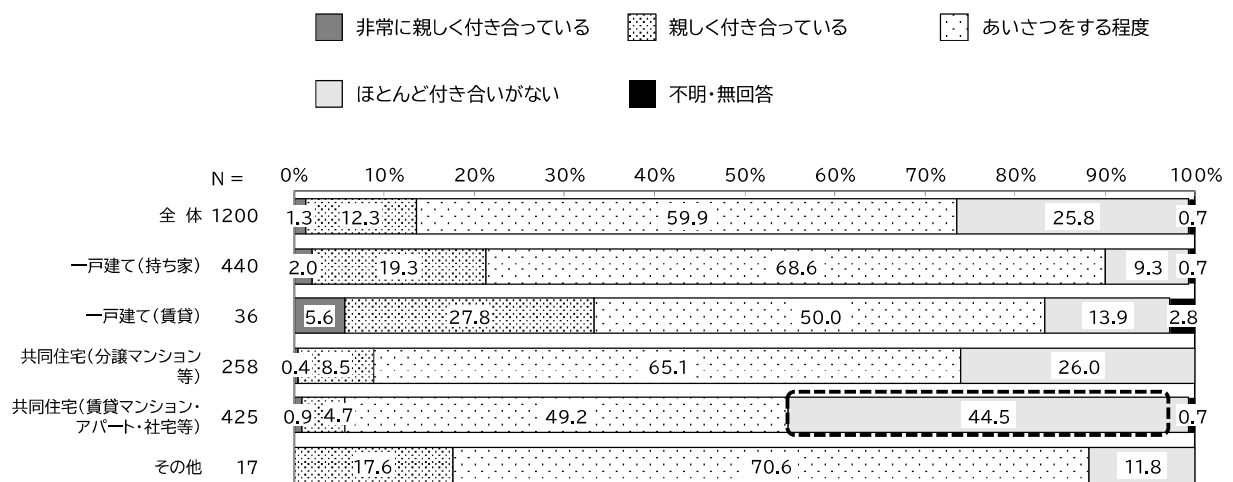
家族構成のうち、「単身（ひとり暮らし）」を年代別にみると、年代が下がるほど「ほとんど付き合いがない」と回答する割合が高く、逆に年代が上がっていくほど「あいさつをする程度」と回答する割合が高くなっています。

単身(ひとり暮らし)		全 体	Q7 近所づきあいの程度				
			合 非 常 に 親 し く 付 き 合 っ て い る	る 親 し く 付 き 合 っ て い る	あ い さ つ を す る 程 度	な ほ い と ん ど 付 き 合 い が	不 明 ・ 無 回 答
全 体		294 100.0	2 0.7	23 7.8	128 43.5	139 47.3	2 0.7
Q 3 3 年 代	20歳未満	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	49 100.0	-	1 2.0	11 22.4	37 75.5	-
	30～39歳	43 100.0	-	1 2.3	13 30.2	29 67.4	-
	40～49歳	40 100.0	-	-	12 30.0	27 67.5	1 2.5
	50～59歳	46 100.0	-	-	26 56.5	20 43.5	-
	60～64歳	16 100.0	-	-	7 43.8	9 56.3	-
	65～74歳	41 100.0	1 2.4	4 9.8	24 58.5	11 26.8	1 2.4
	75歳以上	59 100.0	1 1.7	17 28.8	35 59.3	6 10.2	-

※網掛けは最大値

[住居の種類別]

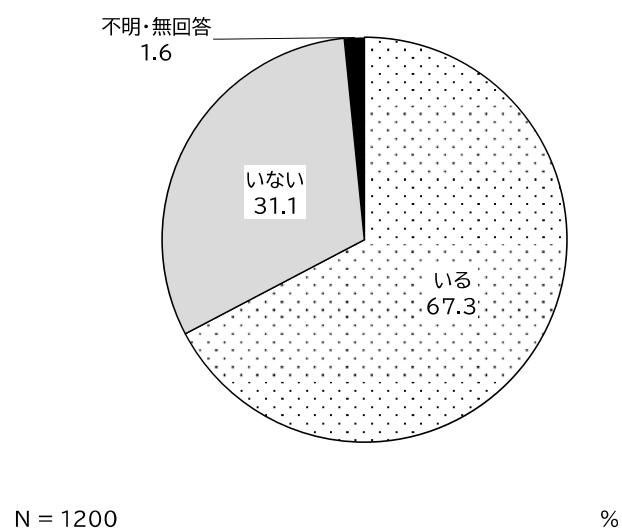
住居の種類別でみると、「ほとんど付き合いがない」は、「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」で44.5%と多くなっています。



(2) 相談できる人の有無

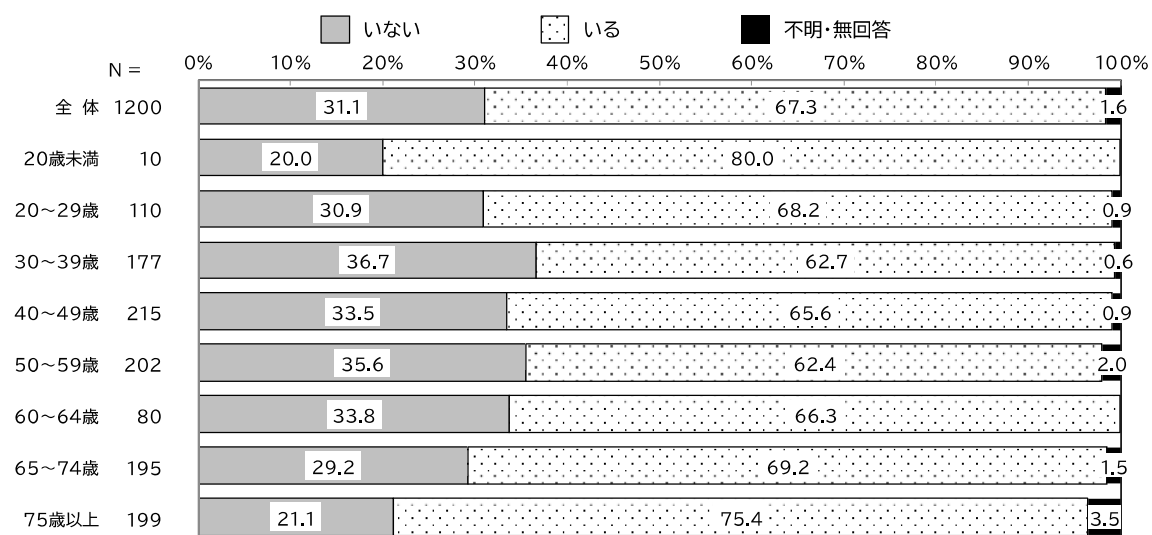
問8 身近に相談できる人はいますか。(○は1つのみ)

身近に相談できる人は、67.3%の方が「いる」と回答しています。一方「いない」は31.1%となっています。



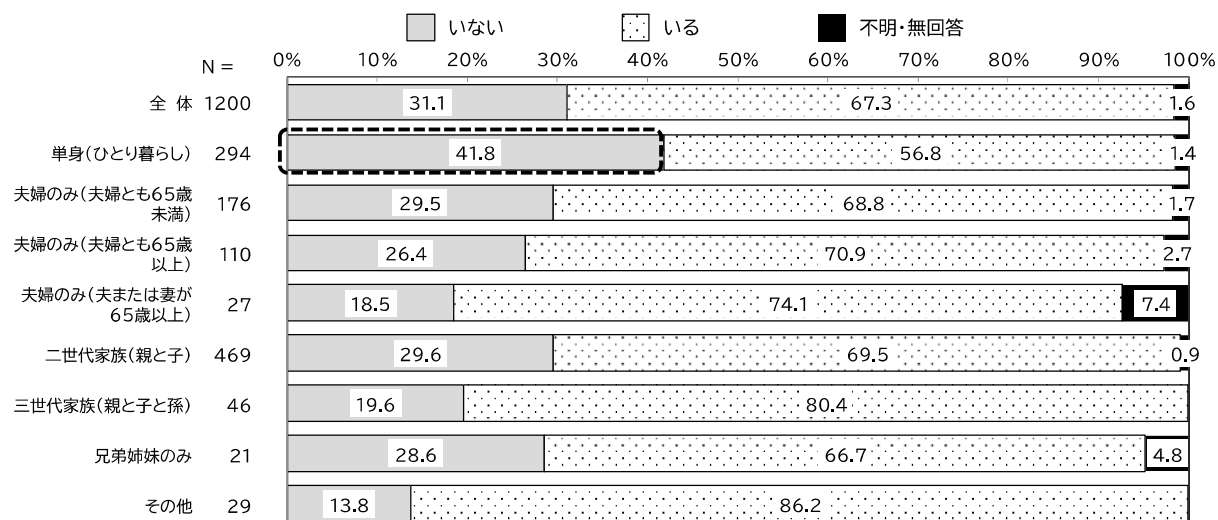
[年代別]

年代別でみると、身近に相談できる人が「いない」は、「30～39歳」(36.7%)で最も多くなっていますが、「20～29歳」から「65～74歳」までの年代で「いない」が約3割を占めています。



[家族構成別]

家族構成別でみると、身近に相談できる人が「いない」は、「単身（ひとり暮らし）」（41.8%）で最も多くなっています。



[家族構成別（単身（ひとり暮らし））・年代別]

家族構成のうち、「単身（ひとり暮らし）」を年代別にみると、身近に相談できる人が「いる」は、「75歳以上」（76.3%）が最も多くなっています。一方、身近に相談できる人が「いない」は、「40～49歳」（55.0%）が最も多く、その年代を中心に年代が下がるほど、また上がるほど「相談できる人がいない」と回答する割合が低くなっています。

単身(ひとり暮らし)		全 体	Q8 相談できる人の有無		
			いる	いない	不明・無回答
全 体		294	167	123	4
		100.0	56.8	41.8	1.4
Q 3 3 年 代	20歳未満	-	-	-	-
	20～29歳	49	28	20	1
		100.0	57.1	40.8	2.0
	30～39歳	43	21	22	-
		100.0	48.8	51.2	-
	40～49歳	40	17	22	1
		100.0	42.5	55.0	2.5
	50～59歳	46	22	24	-
		100.0	47.8	52.2	-
Q 3 3 年 代	60～64歳	16	9	7	-
		100.0	56.3	43.8	-
	65～74歳	41	25	15	1
		100.0	61.0	36.6	2.4
	75歳以上	59	45	13	1
		100.0	76.3	22.0	1.7

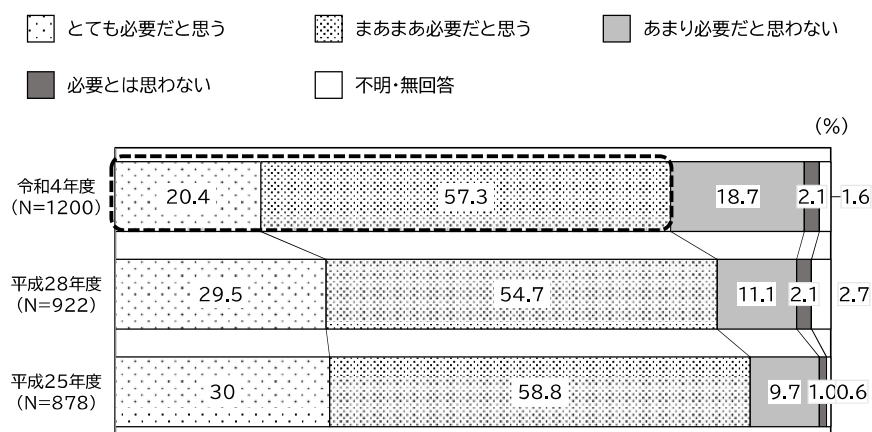
※網掛けは最大値

(3) 支え合いや助け合いの必要性

問9 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。（○は1つのみ）

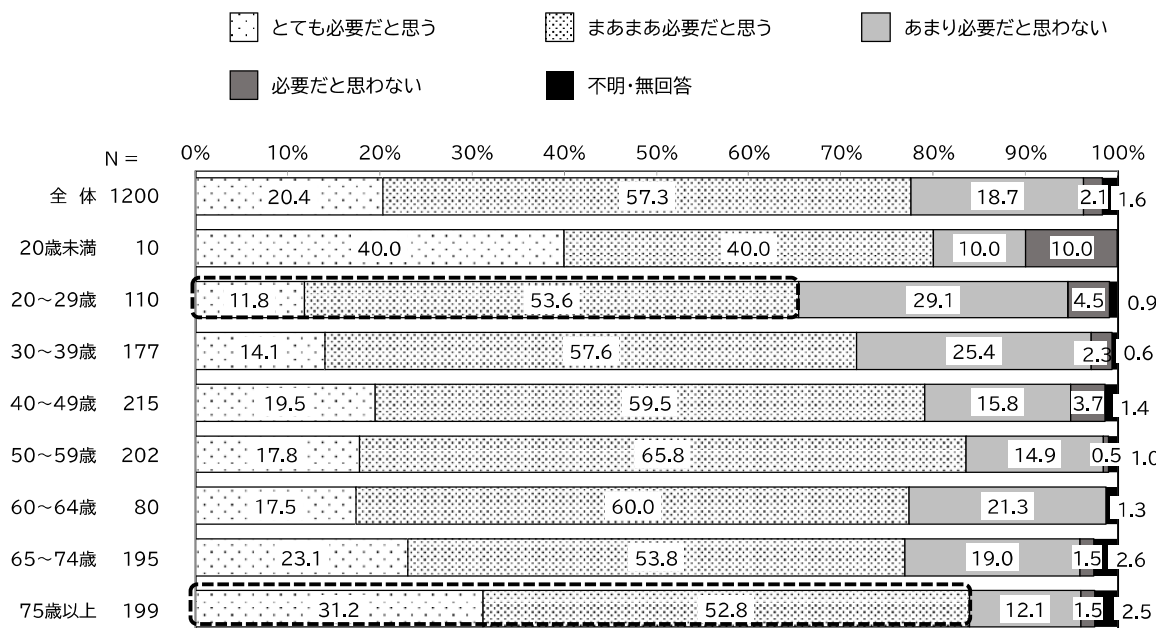
住民同士の支え合いや助け合いについては、57.3%の方が「まあまあ必要だと思う」と回答しており、「とても必要だと思う」（20.4%）と合わせた《必要だと思う》層は約8割となっています。

前回調査と比べると、《必要だと思う》は6.5ポイント減少しており、《あまり必要だと思わない》は7.6ポイント増加しています。



[年代別]

年齢別でみると、多くの年代で《必要だと思う》が7割以上を占めています。特に「75歳以上」（84.0%）が最も多くなっています。一方、「20～29歳」では《必要だと思う》が65.4%で、他の世代と比べて少なくなっています。



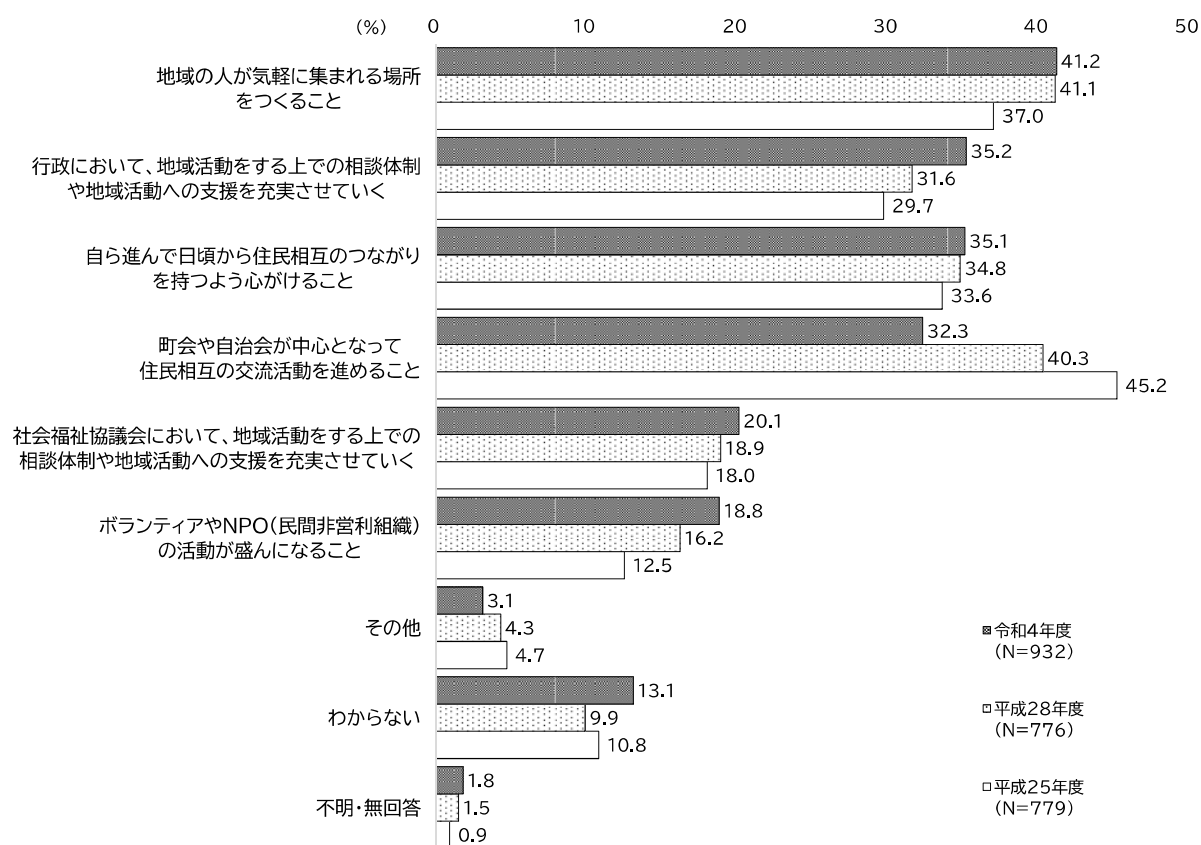
(4) 支え合いや助け合いに必要な取り組み

問9-1 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取り組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするために必要な取り組みとしては、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」(41.2%)が最も多く、次いで「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」(35.2%)、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつよう心がけること」(35.1%)と続いています。

前回調査と比べると概ね傾向は同じですが、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」については、前回から8.0ポイント減り、全項目の中で最も減少しました。前々回と比べても徐々に減る傾向にあります。

一方、「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」は、前回から3.6ポイント増えています。



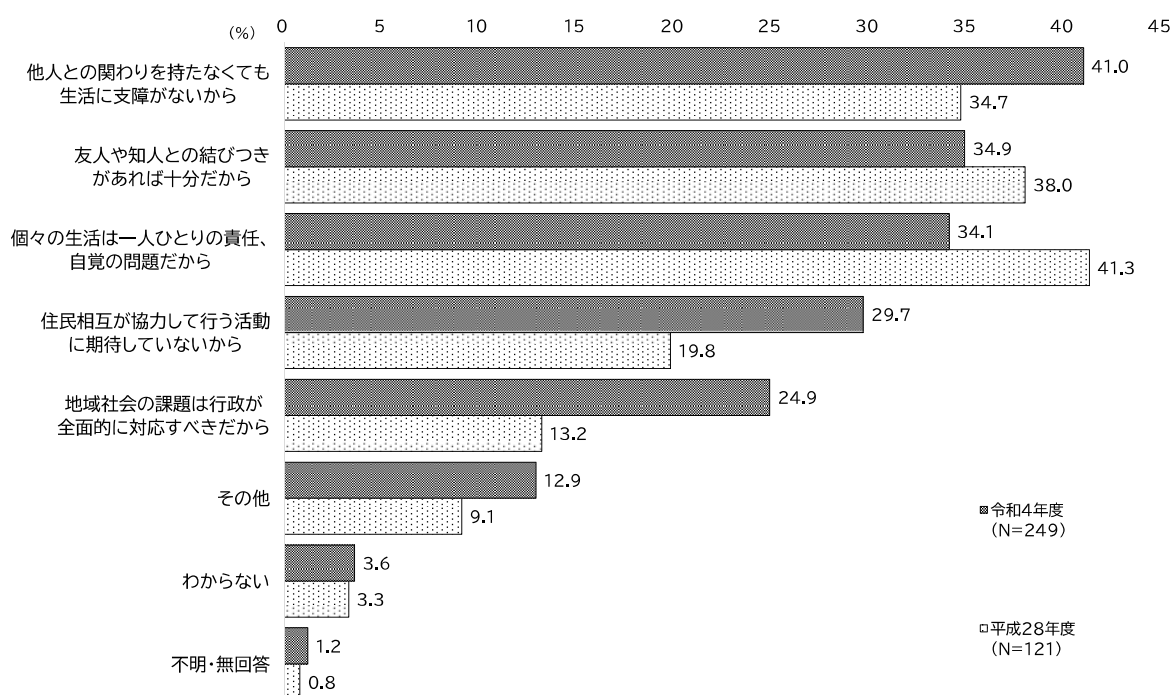
(5) 支え合いや助け合いが必要ない理由

問9-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思う理由としては、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がないから」(41.0%)が最も多く、次いで「友人や知人との結びつきがあれば十分だから」(34.9%)、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」(34.1%)と続いています。

前回調査と比べると、前回最も回答が多かった「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が7.2ポイント減りました。一方、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がないから」は、逆に6.3ポイント増えています。

また、「地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから」は、前回と比べて11.7ポイント増加し、全項目中で最もポイントが増加しました。これは、前回と比べて、回答者の年齢層が全体的に若年化したこと、特に「40～49歳」や「50～59歳」で回答した方の割合が増えたことが一因と見られます。(年代別比較参照)



参考：前回調査との年代別比較

[今回（令和４年度）の結果]

		全 体	Q9.2 支え合いや助け合いが必要ない理由							
			地域 社会の 課題は 行政が 全面的 に 対応す べきだ から	他人と の関 わり をも たな く て 生 活に 支 障 が な い か ら	個 々 の 生 活 は 一 人 ひ と り の 責 任 、 自 覚 の 問 題 だ か ら	住 民 相 互 が 協 力 し て 行 う 活 動 に 期 待 し て い な い か ら	友 人 や 知 人 と の 結 び つ き が あ れ ば 十 分 だ か ら	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全 体		249 100.0	62 24.9	102 41.0	85 34.1	74 29.7	87 34.9	32 12.9	9 3.6	3 1.2
Q 3 3 年 代	20歳未満	2 100.0	- -	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	- -	- -	- -
	20～29歳	37 100.0	10 27.0	17 45.9	10 27.0	13 35.1	18 48.6	6 16.2	2 5.4	- -
	30～39歳	49 100.0	11 22.4	22 44.9	8 16.3	14 28.6	22 44.9	5 10.2	2 4.1	- -
	40～49歳	42 100.0	15 35.7	13 31.0	14 33.3	11 26.2	11 26.2	9 21.4	2 4.8	- -
	50～59歳	31 100.0	8 25.8	8 25.8	10 32.3	13 41.9	8 25.8	5 16.1	- -	- -
	60～64歳	17 100.0	2 11.8	10 58.8	5 29.4	6 35.3	3 17.6	1 5.9	1 5.9	1 5.9
	65～74歳	40 100.0	7 17.5	15 37.5	22 55.0	9 22.5	8 20.0	4 10.0	2 5.0	1 2.5
	75歳以上	27 100.0	9 33.3	13 48.1	12 44.4	7 25.9	14 51.9	1 3.7	- -	1 3.7

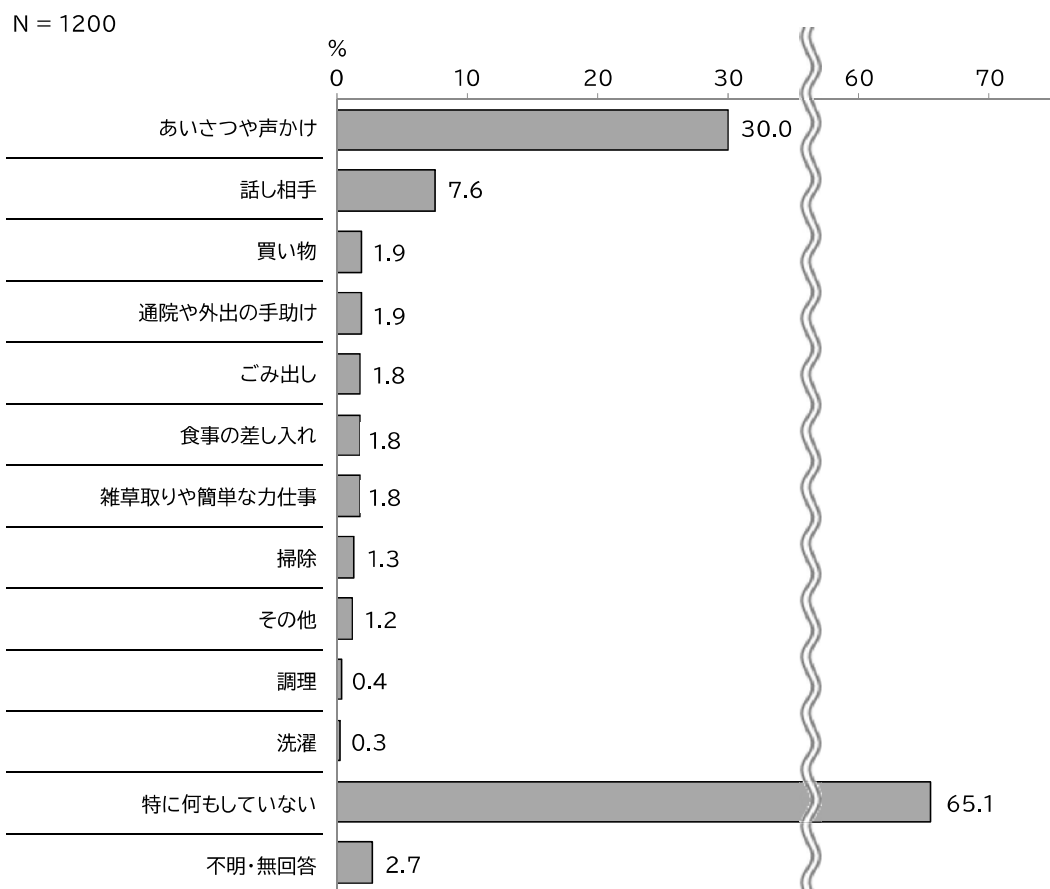
[前回（平成28年度）の結果]

		全体 (件数)	支え合いや助け合いが必要ない理由							
			地域 社会の 課題は 行政が 全面的 に 対応す べきだ から	他人と の関わり をもた なくて も生 活に支 障がな いから	個々 の生活 は一人 ひとりの 責任、 自覚の 問題だ から	住民 相互が 協力し て行う 活動に 期	友人や 知人との 結びつき があれば 十分だ から	その他	わからない	不明・無 回答
全 体		121	13.2	34.7	41.3	19.8	38	9.1	3.3	3
年 代	20歳代	11	27.3	54.5	9.1	-	45.5	-	-	-
	30歳代	18	22.2	38.9	33.3	16.7	50	16.7	-	-
	40歳代	21	-	52.4	47.6	23.8	38.1	19	-	-
	50歳代	9	33.3	33.3	33.3	44.4	11.1	11.1	11.1	-
	60歳代	32	12.5	31.3	46.9	21.9	31.3	6.3	3.1	-
	70歳以上	27	3.7	14.8	48.1	14.8	44.4	3.7	7.4	3.7

(6) 手助けしていること

問 10 高齢者や障害者、妊婦、育児中、介護中、外国籍の方など、近所にお住まいで生活に困りごとを抱えている方に対して、何か手助けしていることはありますか。
(○はいくつでも)

近隣の高齢者等の家庭に対して手助けしていることについては、「あいさつや声かけ」(30.0%)が最も多く、次いで「話し相手」(7.6%)と続いています。一方、「特に何もしていない」は65.1%となっています。



(7) 手助けしていない理由

問 10- 1 特に何もしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

特に手助けしていない理由としては、「困りごとを抱えている方がいるかわからない」(58.6%)が最も多く、次いで「手助けを求めているかわからない」(36.4%)、「困りごとを抱えている方がいない」(23.8%)と続いています。

